

令和7年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学専攻講座



もくじ

I はじめに

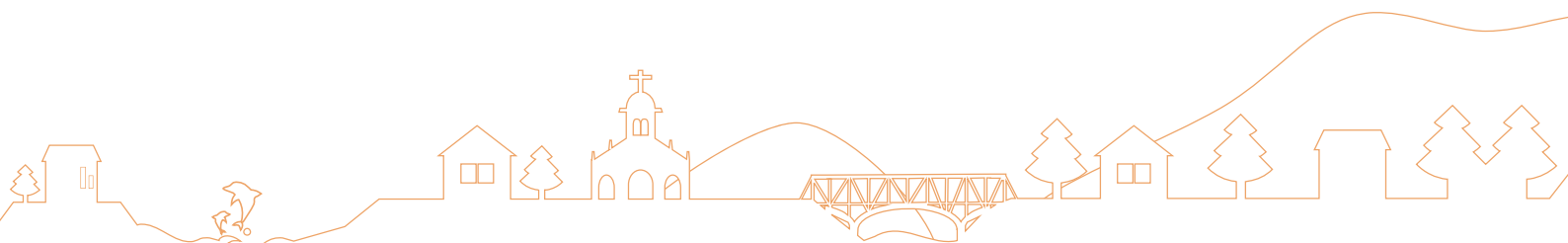
1. 熊本県地域医療支援機構理事長・病院長あいさつ	1
2. 地域医療支援センター長あいさつ	2

2 熊本県地域医療支援機構 (熊本大学病院 地域医療支援センター)

1. 活動概要	3
2. 活動報告	
(1) 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援に関する事	4
(2) 地域医療の医療提供体制の確保に向けた支援に関する事	7
(3) 女性医師及び子育て医師の就業継続及び復職支援に関する事	8
(4) 県内外の医師、医学生等からの相談対応及び求人に関する事	13
(5) その他、支援機構の設置目的を達成するために必要な事業	14

3 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要	18
2. 活動報告	
(1) 調査研究	19
(2) 卒前教育(カリキュラム外)	19
(3) 卒前教育(カリキュラム内)	20
(4) 卒後教育	21
3. 教育拠点	23
(1) くまもと県北教育拠点報告	24
(2) 河浦教育拠点報告	25
4. 地域医療支援の状況	27



4 熊本県医師修学資金貸与学生からの報告

1. 地域医療ゼミ	28
2. 地域医療特別実習	31
3. 卒業生の声	34

5 業績

【論文・執筆】	37
【研究】	38
【学会発表】	38
【講演会・講師等】	39

6 おわりに

【教員】	41
【総合診療科 医局員】	43
【事務スタッフ】	47

7 あとがき



I はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構理事長・病院長あいさつ



熊本県地域医療支援機構 理事長
熊本大学病院 病院長

平井 俊 範

皆様方には、平素より熊本県地域医療支援機構の運営及び「地域医療・総合診療実践学寄附講座」の取組に、多大なご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。この度、令和7年度の活動報告書を作成しましたので、ご一読いただければ幸いに存じます。

当機構は、平成25年12月に熊本県における医師の地域偏在を解消することを目的として県により設置され、同じく、医師が不足する県内の地域の病院や診療所において必要な医師の確保を図ることを目的として県により創設された熊本県医師修学資金貸与制度（いわゆる「地域枠医師制度」）の運用を主な役割として担っております。

この修学資金貸与制度は、平成21年4月の運用開始から17年が経過し、制度の利用者が117人となり、この内80人がすでに医師となって、本県の地域医療に大きく貢献していただいております。

そして、これまでに8人の方が、地域枠医師（貸与医師）としての義務を満了され、今後、更に多くの方がこれに続く予定であり、この制度も成熟期に入ってきたと言えます。

地域枠医師としての義務を満了される皆様は、立場は変わることになりますが、熊本県の医療を支える医療人の一人として、引き続き熊本県の地域医療に関わっていただければ幸甚に存じます。

厚生労働省の統計（令和6年（2024）12月31日現在）によりますと全国の人口10万人当たりの医師数は280.9人で、熊本県は291.6人で全国17番目ですが、34歳以下の若手医師の比率は全国最低（全国平均19.8%に対して熊本県は14.1%）となっており、これとともに医師の地域偏在も問題だと言われております。

熊本県における地域医療提供体制を今後とも安定的に維持していくためには、地域医療を支える若手医師の養成・確保とともに医師の地域偏在の解消が大きな課題として取り組んでいく必要があります。

我々は、平成28年の熊本地震や新型コロナウイルス感染症の蔓延による社会経済活動の大きな停滞を経験し、地域における持続的かつ適切な医療提供体制の確保を図ることがいかに重要であるかを学びました。医師の地域偏在の解消には長い時間を要し、また、新たな医師の養成・確保にも同様に長い時間を要します。本県の地域医療を取巻く状況が依然として厳しい中であっては、引き続き、本機構と「地域医療・総合診療実践学寄附講座」が相互に連携し、それぞれの役割を果たしていくことが肝要です。

本機構といたしましては、今後とも熊本県、医師会、市町村並びに地域医療関係者等の関係諸団体との連携を一層強化し、県内各地のニーズに沿った地域医療が提供されるよう努力して参る所存です。関係者の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

（令和8年3月吉日）

2. 地域医療支援センター長あいさつ



熊本大学病院
地域医療支援センター センター長
同 総合診療科 教授

松井 邦彦

日頃より熊本県地域医療支援機構、熊本大学病院地域医療支援センター及び地域医療・総合診療実践学寄附講座の活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。このたび、令和7年度の活動を取りまとめましたので、ご報告申し上げます。ご高覧いただければ幸いです。

本県では、医師の地域偏在や、地域医療を担う人材の確保・育成が長年にわたる課題となっていました。こうした課題に対応し、地域医療を担う医師の確保・育成を図るため、平成21年に熊本県医師修学資金貸与制度が創設されました。制度開始以来、貸与を受けた多くの医師が県内地域医療の第一線で活躍しており、令和7年度末時点で貸与医師は68名、貸与学生は36名となっています。

一方、県内の医療圏域間における医師偏在は、依然として大きな課題です。卒前から卒後まで一貫した人材育成と医師のキャリア形成支援を行いながら、医師本人の希望と、地域や医療機関のニーズとの両立をいかに図るかは、今後も私たちに課せられた重要な使命です。

さらに本県では、全国と比較して若手医師の割合が極めて少ない状況が続いており、将来的な医師不足が懸念されています。地域医療提供体制を持続可能なものとし、県民の皆様が将来にわたり安心して医療を受けられる環境を維持するためには、若手医師の育成・確保を一層推進することが不可欠です。

こうした課題に対応するため、熊本大学病院をはじめとした県内14の臨床研修病院が連携し、臨床研修の質の向上と若手医師の育成を目的として、令和7年3月に「熊本臨床研修アライアンス」が発足しました。令和7年度からは、地域や施設の枠を超えて県全体で若手医師を育成する体制づくりを進め、熊本の地域医療を将来にわたり支える基盤の強化に取り組んでいます。

熊本県地域医療支援機構、熊本大学病院地域医療支援センター及び地域医療・総合診療実践学寄附講座では、今後も関係機関との連携を一層深めながら、県内の地域医療を担う人材の育成・確保と、持続可能な地域医療提供体制の構築に努めてまいります。本報告書が、私どもの活動への理解を深めていただく一助となれば幸いです。引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

1. 活動概要

熊本県地域医療支援機構は、熊本県（以下「県」という。）における医師の地域偏在の解消を目的として、県内の医師不足の状況等を把握・分析するとともに、医師のキャリア形成支援と一体的に、医師不足医療機関における医師確保支援等を行うため、平成25年11月に県により設置されました。

以来、本機構が担う事業の一部は県から国立大学法人熊本大学に委託されており、同大学病院に設置された地域医療支援センターと本機構が一体となって、各種事業を実施しています。

令和7年度においても、本機構は理事会で承認された事業計画に基づき、各種事業を実施しました。また、県の寄附により熊本大学病院に設置されている地域医療・総合診療実践学寄附講座と密接に連携し、県内の地域医療連携ネットワークの構築を推進することで、地域における安定的な医療提供体制の整備・充実に努めました。

【主な取り組み】

1. 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援
2. 地域の医療提供体制の確保に向けた支援
3. 女性医師及び子育て医師の就業継続及び復職支援
4. 県内外の医師、医学生等からの相談対応及び求人に関する取り組み
5. その他、機構の設置目的を達成するために必要な取り組み

【スタッフ】

熊本大学病院 地域医療支援センター

- ・センター長 松井 邦彦（総合診療科 教授）
- ・副センター長 荒木 智（総合診療科）
- ・特任講師 高柳 宏史（総合診療科）
- ・特任助教 堤 龍子（総合診療科）
- ・地域医療支援コーディネーター 無田 英昭
- ・地域医療支援コーディネーター 川添 光芳
- ・女性医師復職支援コーディネーター 原田 淳子
- ・事務補佐員 横手友紀子

客員研究員

- ・古賀 義規（御所浦診療所 所長）
- ・片岡恵一郎（小国公立病院 院長）
- ・松本 朋樹（松本内科・眼科 理事）

2. 活動報告

(1) 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援に関すること

- ① キャリア形成プログラムに基づく修学資金貸与学生及び医師へのきめ細やかな支援
(一人一人の状況に応じた助言、相談対応、熊本大学病院各診療科との連携・調整等)

●貸与学生及び貸与医師に対する情報提供、相談窓口の運営(通年)

貸与学生及び貸与医師のキャリア形成と義務履行の両立を支援するため、修学資金貸与制度に関するメールや電話による質問・相談に適宜対応するとともに、キャリア形成プログラムの更新をはじめとする制度・運用ルールの改正に際しては、メールやホームページを通じて必要な情報提供を行いました。

また、貸与医師が知事指定病院等において医師業務に従事する期間(義務年限)及びその履行状況を確認できるよう、年度当初に貸与医師全員(68名)に対し、義務履行状況を文書により通知しました。

●知事指定病院等への協力依頼(令和7年4月)

年度当初に、貸与医師が勤務する知事指定病院等の病院長に対し、貸与医師のキャリア形成支援への協力を依頼する文書を発出しました。

また、第2・第3グループの知事指定病院等に勤務する医師(医師3年目以上)については、専門性の向上等を目的として、週1回、勤務先以外の医療機関における研修(派遣)の実施に関する協力を依頼しました。

●貸与学生及び貸与医師との面談の実施(令和7年5月～10月)

県医療政策課と連携し、貸与学生36名及び貸与医師68名の計104名を対象に面談を実施しました。面談は原則として対面形式で行い、県外の病院・大学に在籍する3名(医師1名、学生2名)については、リモート形式により実施しました。

貸与学生に対しては、生活状況や将来の希望等について聞き取りを行い、個々の状況に応じて生活面及び学習面に関する助言等を行いました。また、貸与医師に対しては、生活状況や勤務状況、今後のキャリアプラン等について聞き取りを行い、それぞれの状況に応じた指導・助言を実施しました。

●地域医療特別実習の実施(令和7年8月、12月)

地域医療特別実習は、貸与学生及び自治医科大学生(熊本県出身者)のキャリア形成支援の一環として、地域医療マインドの醸成等を目的に、地域医療・総合診療実践学寄附講座と連携し、毎年度県内各地域で実施しています。令和7年度は、夏季(8月)及び冬季(12月)の2回実施しました。

夏季実習は、8月に水俣・芦北地域(水俣市、芦北町、津奈木町)において1泊2日の日程で実施し、過去最多となる41名(貸与学生29名、自治医科大学生12名)が参加しました。また、冬季実習は、12月に玉名地域(玉名市、和水町)において1泊2日の日程で実施し、夏季実習に参加できなかった貸与学生3名が参加しました。

夏季・冬季実習ともに、実習協力機関の関係者や地域医療に従事する先輩医師等との懇談会・意見交換会を開催しました。参加した学生にとって、地域医療への理解を深めるとともに、多くの学びを得る充実した実習となりました。

(詳細については31ページ参照)

●熊本大学病院関係診療科(医局)への訪問(令和8年1月～2月)

熊本県医療政策課と連携し、令和8年度から専門研修プログラムに従事する貸与医師7名が所属予定の診療科(医局)を訪問し、診療科長及び医局長に対して修学資金貸与制度の説明を行うとともに、貸与医師がキャリア形成プログラムに基づきキャリア形成と義務履行を両立できるよう協力を依頼しました。

② キャリア形成プログラムに基づく修学資金貸与医師に係る派遣計画案の作成及び負担軽減策の実施

●貸与医師の派遣人事説明会の開催（令和7年7月）

次年度の派遣計画案の策定を、熊本大学病院の関係診療科（医局）の理解と協力のもと円滑に進めるため、県医療政策課と連携し、貸与医師の派遣人事に関する説明会を開催しました。

説明会では、県医療政策課から大学病院の関係診療科長及び医局長に対し、医師修学資金制度、第2グループ病院への派遣調整の考え方並びに貸与医師の令和8年度派遣先医療機関の決定に向けた事務スケジュール等について説明を行いました。

また、貸与医師との面談時に提出される次年度勤務先の希望調書やキャリアプランに関する意見交換の実施、各診療科（医局）に所属する貸与医師の令和8年度派遣先医療機関の調整結果の報告（10月中旬期限）、並びに派遣案の調整について協力を依頼しました。

●貸与医師の派遣計画案の策定（令和8年2月）

令和8年度に医師3年目以上となる貸与医師（令和8年度に専門研修プログラムに従事する医師を除く）については、各診療科（医局）から提出された貸与医師の派遣人事に関する調整結果（10月報告）を基に、県内各地域における医師不足の状況や研修先・勤務先の状況等を踏まえながら、貸与医師本人の意向にも配慮し、必要に応じて所属する大学病院の診療科（医局）との調整を行った上で、令和8年度の派遣計画（勤務先）案を作成しました。

<派遣計画案 概要>

1) 対象医師（時点：令和8年4月1日）

・医師年数3年目以上の医師	55名
・臨床研修医（医師年数1～2年目）	13名

※年度内に勤務先（勤務する病院）が変わり、複数の病院で勤務する貸与医師もいるため、人数は「人年法」でカウント。
※（ ）は令和7年度の実績。

2) 医師3年目以上の医師の病院区分ごとの派遣数

① 知事指定病院等	44.1人(44.1人)
・第1グループ	15.0人(17.6人)
・第2グループ	17.5人(14.5人)
・第3グループ	11.0人(12.0人)
② その他の病院（後期研修・義務内）	6.0人(6.0人)
③ その他の病院（後期研修・義務外）	7.5人(4.9人)

③ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度の運営

●貸与学生及び貸与医師に対する修学資金貸与制度及びキャリア形成プログラムについての周知徹底（通年・一部再掲）

地域医療・総合診療実践学寄附講座と連携し、県医療政策課の協力のもと、新入学貸与学生を対象とした制度説明会（令和7年4月）及び貸与学生を対象とした制度・キャリア形成説明会（令和8年2月）を開催しました。また、貸与学生及び貸与医師を対象とした面談（令和7年5月～10月）等の機会を活用し、修学資金貸与制度及びキャリア形成プログラムの周知を図りました。

さらに、キャリア形成プログラムの改正（令和8年3月）に際しては、貸与学生及び貸与医師に対してメールにより通知するとともに、改正内容を支援機構ホームページに掲載するなど、制度改正に関する周知を行いました。

【熊本県医師修学資金貸与人数一覧（2026年1月現在）】

（単位：名）

区分	医師年数・学年	枠区分			計	男女区分	
		地域枠	一般枠	県外枠		男	女
貸与医師 （医師3年目以上）	11年目		1		1		1
	10年目	3			3	1	2
	9年目	4	3		7	6	1
	8年目	5	2		7	4	3
	7年目	5	4		9	7	2
	6年目	3	6		9	8	1
	5年目	5			5	3	2
	4年目	5	3		8	5	3
	3年目	5	1		6	2	4
	小計	35	20	0	55	36	19
貸与医師 （臨床研修医）	2年目	6	1		7	2	5
	1年目	6			6	2	4
	小計	12	1	0	13	4	9
貸与医師 計		47	21	0	68	40	28
貸与学生等	6年生	4		2	6	4	2
	5年生	4			4	2	2
	4年生	2			2	1	1
	3年生	9			9	5	4
	2年生	7			7	4	3
	1年生	8			8	4	4
貸与学生 計		34	0	2	36	20	16
合 計		81	21	2	104	60	44

57.7% 42.3%

●知事感謝状贈呈及び知事表敬訪問（令和 8 年 1 月、3 月）

令和 7 年度末をもって義務年限を満了する貸与医師 3 名が、同じく令和 7 年度末をもって義務年限を満了する自治医科大学卒業医師 2 名とともに、知事から感謝状の贈呈を受け、懇談を行いました。

また、令和 7 年度に大学を卒業し、令和 8 年度から医師として勤務を開始する修学資金貸与者 5 名が木村知事を表敬訪問しました。貸与者は、それぞれ地域医療に携わる今後の抱負を述べ、知事から激励の言葉をいただきました。



④ 熊本県医師修学資金貸与条例に規定する知事指定病院等における医師不足の状況等に関する調査・分析

●知事指定病院等の状況に関する調査の実施（令和 7 年 5 ～ 6 月）

知事指定病院のうち、特に医師確保が困難な第 2 ・ 第 3 グループの 18 病院を対象に調査を実施し、調査結果の効果的な活用と病院等の負担軽減を図るため、調査票の項目・内容の見直しを行いました。

また、調査結果については熊本大学病院の各診療科（医局）に情報提供を行い、貸与医師の派遣人事に活用されるよう共有しました。さらに、貸与医師の勤務上の配慮や支援体制に関する調査結果については、全ての貸与医師に対しても情報提供を行いました。

<調査項目>

1. 来年度（令和 8 年度）、熊大病院に派遣を求める医師数（常勤医師、非常勤医師）について
2. 地域枠医師（貸与医師）への勤務上の配慮や支援体制について
3. 地域枠医師（貸与医師）の受け入れに関する留意事項について

⑤ その他

●地域医療ゼミの開講（通年、一部再掲）

貸与学生へのきめ細やかな支援の一環として、地域医療・総合診療実践学寄附講座と連携し、貸与学生及び自治医科大学学生（熊本県関係者）の地域医療マインドを卒前から涵養することを目的に、地域医療ゼミを開講しました（毎月 1 回、原則第 3 木曜日開催）。

また、本ゼミの一環として、夏季（8 月・水俣芦北地域）及び冬季（12 月・玉名地域）に地域医療特別実習を実施しました。貸与学生（夏季実習は自治医科大学学生も参加）が実際に地域の医療機関や関係施設等を訪問し、地域医療の現場を体感する機会を設けることで、地域医療について主体的かつ多角的に学ぶ場を提供しました。

さらに、県医療政策課と連携し、新入学貸与学生を対象とした制度説明会（4 月）及び貸与学生を対象とした修学資金貸与制度と医師としてのキャリア形成に関する説明会（2 月）を開催し、制度及びキャリア形

成に対する理解の促進に努めました。

●地域医療総合演習の開講

令和4年度に文部科学省の「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に採択された長崎大学、熊本大学及び鹿児島大学による3大学連携プロジェクトの一環として、熊本大学では医学科の選択科目「地域医療総合演習」を開講しました。

本演習は、主に貸与学生（5年次）を対象として毎月1回実施され、教育指導者として必要な知識や能力について、講義及びワークショップ形式により学習しました。

また、11月に開催した地域医療ゼミでは、同演習の受講学生が講師となり、他の貸与学生に対して教育活動を行いました。受講学生にとっては、学んだ内容を実践する機会となり、教育指導者としての資質・能力の向上につながりました。

(2) 地域医療の医療提供体制の確保に向けた支援に関すること

① 医師が不足する医療機関への診療支援並びにテレビ会議システム等を活用した教育支援

当機構の専任医師が、医師が不足する医療機関に対して診療支援を行いました。

また、専任医師による診療支援のほか、地域医療・総合診療実践学寄附講座との連携により、同寄附講座の医師が常勤又は非常勤の医師として、医師が不足する医療機関へ赴き診療支援を行いました。

	医師	支援先医療機関	支援内容
専任医師	高柳 宏史	上天草総合病院	非常勤 通年(週1回)
		御所浦診療所	非常勤 通年(週1回)
	堤 龍子	山都町包括医療センターそよう病院	非常勤 通年(週1回)
寄附講座教員	松井 邦彦	くまもと県北病院	非常勤 通年(週1回)
	荒木 智	有明医療センター	非常勤 通年(週1回)
		天草中央総合病院	非常勤 通年(週1回)
	佐土原 道人	阿蘇医療センター	非常勤 通年(週1回)
	北村 泰斗	くまもと県北病院	非常勤 通年(週1回)
		山都町包括医療センターそよう病院	非常勤 通年(週1回)
	鶴田 真三	天草市立河浦病院	常 勤
		天草地域医療センター	非常勤 通年(週1回)
	平賀 円	くまもと県北病院	常 勤

●レジデントデイの実施(通年)

地域医療・総合診療実践学寄附講座と連携し、総合診療科の若手医師を対象に、テレビ会議システム等を活用したレジデントデイ(年5回)を開催するなど、総合診療医としての能力向上に向けた取組を実施しました。

これらの取組を通じて、総合診療医として必要な知識や技能の習得に向けた助言・指導を行いました。

●医療情報の提供(通年)

インターネットによる臨床支援ツール「今日の臨床サポート」を利用できる環境を整備し、貸与医師、貸与学生、自治医科大学卒業医師(義務履行中の者に限る)及び自治医科大学生が、最新の医療情報や臨床手技等に関する情報を活用できるよう、登録者の拡大と利用促進を図りました。

また、地域医療を支える総合診療医の育成を目的として、総合診療科を選択した学生に対し、実習期間中の「今日の臨床サポート」の利用機会を提供するとともに、くまもと県北病院で臨床実習を行った学生を対象に、テレビ会議システムを活用した実習成果発表会を実施し、地域医療支援センターの教員及び指導医による評価・指導を行いました。

「今日の臨床サポート」活用実績	
ユーザー登録数	225人
全ログイン件数	3,048件
全アクセス件数	19,780件

(令和8年3月現在)

② 熊本県地域医療連携ネットワークの構築に向けた全体調整

地域医療連携ネットワーク構築支援事業と連携し、熊本県からの要請に基づき、熊本大学病院の関係診療科との調整を行い、熊本大学病院から医師24名を地域医療拠点病院等へ常勤医師として派遣することで、地域の中核的医療機関の機能強化を図りました。

また、地域医療連携ネットワーク構築支援事業により雇用している特任教員23名を週2日、非常勤医師として地域の医療機関へ派遣し、専門医療の提供や貸与医師・研修医への指導等を行いました。これらの取組を通じて、地域医療連携ネットワークの構築を推進し、地域における安定的な医療提供体制の整備・充実に努めました。

③ 地域の医療機関・自治体に対する将来の医療提供体制の構築に向けた 助言・提案、関係機関の役割や方向性に関する連携、調整の支援

地域医療・総合診療実践学寄附講座と連携し、くまもと県北病院及び河浦病院に教育拠点を設置することで、地域で必要とされる医師の育成及び教育機能の向上を図りました。また、同講座から派遣した教員による診療支援を通じて、地域で求められる医療に適切に対応できる医師の育成と病院機能の向上に貢献しました。

さらに、地域医療支援センター及び同講座の教員が診療支援先の病院と医療提供体制に関する課題等を共有し、意見交換を行うことで、地域における医療提供体制の充実に努めました。

(3) 女性医師及び子育て医師の就業継続及び復職支援に関すること

① 専任医師及び復職支援コーディネーターによる就業継続・復職支援、 地域の医療機関に対する女性医師支援及び子育て医師支援に関する提案や助言

●お留守番医師制度

週1回（場合によっては月1回）からの復職を希望する医師を支援するため、「お留守番医師制度」を運営しています。本制度は、家庭との両立や健康面への不安を抱える医師が復職しやすい環境を整備することを目的としており、協力医療機関（18医療機関）と連携して実施しています。

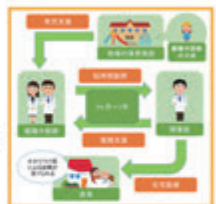
また、在宅医療の実施を希望する医療機関にとっては代診医師の確保につながり、地域住民にとっては、かかりつけ医による訪問診療の継続が可能となるなど、地域医療の維持・充実に寄与します。

なお、令和7年度末時点の登録医療機関数は18件であり、令和7年度の新規利用医師数は0名でした。



休職中の先生方に
外来診療に協力が欲しい診療所の情報を提供しています。

- ・かかりつけ医が訪問診療を行っている間、週1回程度外来診療に協力してください。
- ・人材を募集している医療機関の情報を開示し、まずは体験の機会を得て頂くシステムです。条件が合えば外来診療の協力が繋がれると思います。
- ・就労中こどもの保育が必要な場合は保育施設をご紹介します。メディッククラブを利用される場合、保育料は無料です。
- ・勤務先によっては、就労日のこどもの急な発熱時などは訪問診療日を変更するなどの対応が可能です。
- ・詳細につきましては下記までご相談ください。



お問い合わせ：熊本県地域医療支援機構（熊本大学病院 地域医療支援センター内）

TEL: 096-373-5795

メールアドレス: k-joseishi@kumamoto-u.ac.jp

【お留守番医師制度に加入している医療機関】

地域	病院	地域	病院
熊本市中央区	明午橋内科クリニック	上益城郡	山地外科胃腸科医院
熊本市南区	御幸病院	上益城郡	益城なかぞのクリニック
熊本市南区	土井内科クリニック	上益城郡	谷田病院
熊本市北区	まえだクリニック	水俣市	山田病院
熊本市北区	清藤クリニック	菊池市	菊池郡市医師会立病院
熊本市北区	なかむらファミリークリニック	菊池市	宮本内科クリニック
宇城市	中村医院	荒尾市	西原クリニック
宇城市	済生会みすみ病院	玉名市	ひがし成人・循環器内科クリニック
宇土市	宇土中央クリニック	南阿蘇村	阿蘇立野病院

●相談業務

熊本県女性医師キャリア支援センター（熊本大学病院地域医療支援センター内に設置。専任医師1名及びコーディネーター1名を配置）を相談窓口として、女性医師等からの相談に対応しました。

なお、令和7年度の相談件数は41件で、内訳は対面18件、電話4件、メール等19件でした。

【相談内容(延相談数)】

単位:人

相談内容	件数	相談内容	件数
お留守番医師制度について	3	メンター制度について	0
働くこと働き方についての相談	9	同僚・医局の医師について	0
求人の問い合わせ	4	子育てについて	3
保育施設について	0	社会保障等について	0
支援制度についての問い合わせ	4	マタニティ白衣・パンツについて	7
ネットワークづくり	0	医学生等支援	11
復職相談	0		

●復職支援

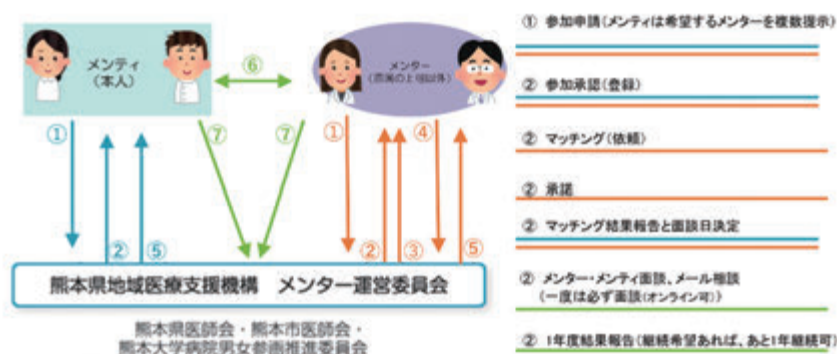
産後に復職した女性医師の勤務環境について、関係者とオンライン（Zoom）による面談を実施し、働きやすい職場環境づくりを支援しました。

●医療機関に関する提案

熊本大学病院に勤務する医師からの相談を受け、女性医師が勤務中に授乳室を利用しやすい環境づくりに向けて病院へ働きかけを行いました。その結果、授乳室の案内表示に職員利用に関する記載が追加されました。

② メンター制度による相談体制の強化(通年)

メンター制度は、若手医師や医学生（メンティ）が、キャリア形成やワークライフバランス等に関する悩みについて、先輩医師（メンター）に相談しながら目標設定や課題解決に取り組む制度です。メンターとメ



ンティの関係を構築しやすいよう、活動期間は原則1年間とし、希望に応じて1年間延長できる仕組みとしています。

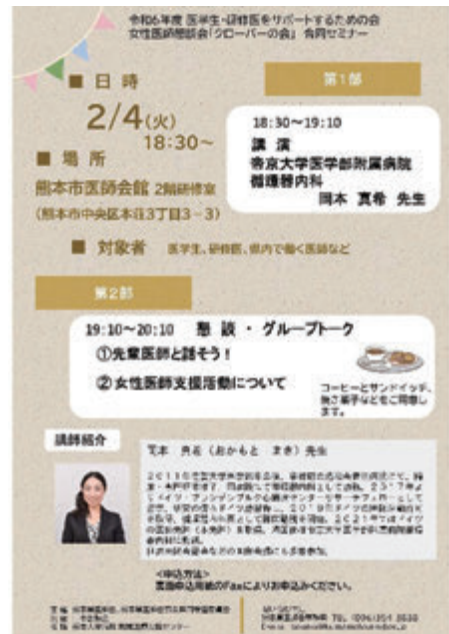
令和7年度は、新規メンティ登録はなく、継続案件が1件でした。なお、令和6年度に登録されたメンティについては、メンターとの面談実施後の状況把握及び必要な情報提供を行いました。

③ キャリア支援研修会の開催、育児支援、情報発信、女性医師及び子育て医師支援に関する調査

●キャリア支援研修会

令和7年11月14日にキャリア支援セミナーを開催し、現地14名、オンライン42名の計56名が参加しました。

また、「女性医師等の勤務環境の整備に関する病院長、病院開設者・管理者等への講習会」（令和8年1月20日）、「地域における女性医師支援のための会」（令和8年1月30日）、「研修医・医学生をサポートするための会」（令和8年2月10日）への参加・協力を行ったほか、医学部生を対象としたキャリア形成や男女共同参画に関する講義（第1学年・第4学年）に協力しました。



●マタニティ白衣・マタニティパンツの貸出サービス

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、熊本県内に在住する妊娠中の医師を対象に、マタニティ白衣及びスクラブパンツの無料貸出しを行っています。

- ・令和7年度利用者：6名
(平成29年5月31日～令和8年3月までの利用者合計延べ27名)
- ・平成29年5月31日に本サービスを開始し、令和4年度までは白衣(Sサイズ10着、Mサイズ10着)及びスクラブパンツ(Mサイズ10着)を整備して運用してきました。その後、利用者の利便性向上を図るため、令和5年度に白衣及びスクラブパンツのLサイズをそれぞれ6着追加整備しました。さらに、令和7年度にはスクラブパンツのLサイズを6着追加し、Lサイズのスクラブパンツは計12着の体制としました。

利用者からは、「お腹が大きくてもボタンをとめて白衣が着られたのが一番良かった。外来の時もありお腹が目立たなかったようでした。」等の声が寄せられており、好評を得ています。



本サービスは、熊本県内在住の妊娠中の医師であれば利用可能です。今後もサービスの周知を図り、多くの医師に活用いただけるよう努めていきます。

なお、センターでの受渡し及び試着は無料で、郵送による貸出しにも対応しています(送料は利用者負担)。

●熊本県医師キャリア支援に関するアンケート調査

平成27年度から概ね2年ごとに、県内病院を対象として女性医師の出産・育児・復職支援制度に関するアンケート調査を実施し、その結果を「CLOVER(熊本県医師キャリアサポートブック)」として取りまとめています。

令和7年度は、令和7年4月及び10月に施行された育児・介護休業法の改正内容に関する調査項目を追加し、県内全200病院を対象にアンケートを実施しました。その結果、76病院から回答を得て(回答率38%)、うち70病院から掲載承諾をいただきました。調査結果は「CLOVER」第6版として取りまとめ、県内外の関係機関や医師等への広報活動に活用しました。

本冊子の詳細については、右記記載QRコードから熊本県地域医療支援機構ホームページをご覧ください。



●情報発信・広報活動

令和7年改正育児・介護休業法の施行を踏まえ、出産・育児に関する各種制度を分かりやすくまとめた冊子『母性健康管理にかかる各種制度』を作成しました。冊子は知事指定医療機関、貸与医師、医学生及び各種講演会参加者等に配布するとともに、機構ホームページにも掲載しました。

また、『自治医科大学卒業生リレーエッセイ』を取りまとめ、貸与医師及び貸与学生に配布したほか、機構広報誌『COCODE! vol. 9』の「女性医師の多様なキャリアパスについて考える」の掲載に向けて女性医師への取材を行い、記事を作成しました。

さらに、県内全ての病院に対して熊本県女性医師キャリア支援センターのチラシやパンフレット等を送付するとともに、機構主催の講演会やセミナー等の機会を活用して配布しました。加えて、LINEやFacebookの公式アカウントを活用した相談体制を整備するとともに、LINE、X、Facebook及びホームページを通じて事業紹介や活動報告等の情報発信を行いました。

[illegible]

広報誌『COCODE！ vol.9』
「女性医師の多様なキャリアパスについて考える」

[illegible]

夫(になる人も)・管理職・同僚も必読！

母性健康管理にかかる各種制度

～健康で妊娠・出産・育児と向き合うために知っておきたいこと～



令和 7 年 (2025 年) 7 月
(R7.10.1 改訂)

能本県地域医療支援機構



制度管理にかかる各種制度。
制度表など

「母性健康管理にかかる各種制度」

(4) 出席・育児に備える（各種制度・給付金）

基本はノーク・ノペイ

公務員は、産休時是有給二ヶ月

两

給与と賞与の支給の有無は、勤務先の規定によります。
基本は「ネットワーク・ノープール」なので、民間の多くの事業所では、産前産後休暇中や育児休業期間中は無給となっています。
※ 市、市町村立病院の勤務者の給与は、各自治体の条例等で定められており、産前・産後休業中は、給与は、育児休業中は無給です。

けれども、雇用保険の被保険者は、産休や育休で給与が支払われなかった場合は、一定の範囲で、「出産手当金」、「育児休業給付金」の支給を請求できます。

産後ババ育休で給与を受けていない場合も、「**出生時育児休業給付金**」が支給されます。
さらに2025年4月から、共働き・共育でを推進するため、「**出生後休業支援給付金**」制度が

始まりました。子どもが生まれた直後の一定期間に、両親ともに14日以上の育児休業や産後パパ育休を取ると、育児休業給付金、出生時育児休業給付金（給与の各67%程度）に加えて、

厚生年金保険給付金（給与の13%程度）を最大28日間支給されます。この間は、健康保険料、厚生年金保険料の免除などにより、各給付金の合計が給与手取りの10割相当になります。

養育児休業給付金、出生時育児休業給付金は、育休等開始前2年間に賃金支払基礎日数が11日以上の方
が12か月以上の方が対象のため、卒後就職1年目までは支給対象になりません。就職2年目で勤務先が

変わった場合は、要件を満たせば支給対象となります。

Figure 6

2012 年 12 月 1 日，本公司与上海浦东发展银行股份有限公司（以下简称“浦发银行”）签订了《授信额度协议》，授信额度为人民币 10 亿元，期限自 2012 年 12 月 1 日起至 2015 年 12 月 31 日止。该协议项下的授信额度将用于本公司日常经营周转需要。截至 2013 年 12 月 31 日，该授信额度尚未使用。

[illegible]

出典：厚生労働省リーフレット「2025年4月から『出生後休業支援給付金』を創設します」

また、県立・市町村立病院の勤務者は、賞与の基準日が6月1日、12月1日となっており、基準日に育児休業中の場合は、基準日以前6か月の勤務状況に応じて、各自治体の条例等で支給額が定められています。

育児休業や出生時育児休業の日数、また、育児短時間勤務、部分休業等の勤務しない時間・日数に応じて、算出計算の基礎となる期間は短くなります。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000 1001 1002 1003 1004 1005 1006 1007 1008 1009 1010 1011 1012 1013 1014 1015 1016 1017 1018 1019 1020 1021 1022 1023 1024 1025 1026 1027 1028 1029 1030 1031 1032 1033 1034 1035 1036 1037 1038 1039 104

④ 女性医師及び子育て医師キャリア支援に関するネットワークの構築

女性の貸与医師及び自治医科大学卒業医師を対象に、少人数による意見交換会を3回開催しました。開催に当たっては、事前に仕事や生活に関するアンケートを実施し、その結果も踏まえながら意見交換を行いました。

意見交換会には延べ16名(実人数12名)の女性医師が参加し、情報交換を通じて交流を深めるとともに、疑問や悩みの共有、有益な情報を得る機会となりました。また、第1回は現地参加に加えてZoomによる聴講参加を可能とし、第3回には女子貸与学生2名も参加しました。

さらに、女性医師のネットワークづくりを目的として、女性の貸与医師及び自治医科大学卒業医師によるグループLINEを活用し、情報提供や情報交換を行いやすい環境づくりを進めました。

(4) 県内外の医師、医学生等からの相談対応及び求人に関すること

① 県内外の医師、医学生等からの相談窓口の設置、面談対応

機構(センター)に相談窓口を設置し、修学資金貸与制度の内容や各種手続き、キャリア形成と義務履行の両立に関して、貸与学生及び貸与医師が随時相談できる体制を整備しています。

令和7年度は、貸与医師を中心にメールや電話による相談や問い合わせが寄せられました。相談内容に応じて熊本県医療政策課とも連携を図りながら、適切な情報提供や助言を行いました。

＜相談内容＞(※件数は、相談事案ベース)

- i) キャリア形成と義務履行、勤務先調整等に関すること(6件)
- ii) 育児時間や育児休業の取得と義務年限の算定等に関すること(4件)
- iii) 医師業務従事の中止手続き等県への届出に関すること(5件)
- iv) 修学資金管理データベースシステム等の利用に関すること(3件)
- v) 医師少数区域経験認定制度に関すること(3件)

② 熊本県地域臨床実習支援制度の実施

医師を目指して県外の大学医学部等で学ぶ学生が、県内の医療機関で実施する臨床実習等を支援し、将来の医師偏在の是正や医師不足の解消につなげることを目的とした「肥後ふるさと医学生実習支援事業」を、令和7年度も実施しました。

本事業の周知を図るため、全国の大学医学部等にチラシや実施要領を送付し、利用を呼び掛けました。その結果、関東の大学に在籍する医学生から1件の利用申請があり、天草地域の病院における約1週間の臨床実習に活用されました。

本事業の詳細については、下記QRコードから熊本県地域医療支援機構ホームページをご覧ください。

○熊本県地域医療支援機構ホームページ



③ 県内外医師へのリクルート活動

県内外の医師や医学生等からの相談（求職を含む）に随時対応できるよう、機構ホームページ上に相談窓口を設置し、相談体制の充実を図りました。

また、地域医療支援機構の広報誌「COCODE!（ココデ）」を県内全ての高校及び予備校に配布し、将来地域医療を担う人材の確保・育成に向けた広報活動を行いました。

(5) その他、支援機構の設置目的を達成するために必要な事業

① 熊本県地域医療支援機構理事会の運営

令和8年2月17日（火）「第18回熊本県地域医療支援機構理事会」を開催し、以下の議題について審議され、いずれも異議なく承認されました。

<議題>

- (1) 令和7年度（2025年度）事業実績について
- (2) 令和8年度（2026年度）事業計画案について
- (3) 令和8年度貸与医師派遣計画（勤務先）案について

② 地域医療に関する周知・啓発

●熊本県地域医療支援機構講演会

日 時：令和7年6月5日（木）18：30～

会 場：熊本大学病院 くすのきテラス3階大会議室
（対面とオンライン併用によるハイブリッド方式）

参加者：現地とオンライン参加を合わせて約90人
（定員：80人）が参加。

<講演>

千葉大学や千葉県における医療人育成の取り組み
～教育の価値を高める拠点形成と地域連携を目指して～
千葉大学 大学院医学研究院 医学教育学
教授 伊藤 彰一 先生

<講演内容>

千葉大学大学院医学研究院医学教育学教授の伊藤彰一先生を講師に迎え、「千葉大学や千葉県における医療人育成の取り組み～教育の価値を高める拠点形成と地域連携を目指して～」をテーマとした講演会を開催しました。

講演後のアンケート（回答者33名）では、「教育分野における組織横断的な取組が参考になった」「地域医療の担い手育成に関する具体的な取組を知ることができた」などの意見が寄せられ、回答者の約91%から「大満足」又は「満足」との評価をいただきました。医療関係者にとって、今後の熊本県における地域医療の在り方や人材育成について考える有意義な機会となりました。



●広報誌「COCODE! (ココデ)」の発刊(令和8年2月)

医学生や若手医師並びに将来医師を目指す高校生等に地域医療及び総合診療に関する理解を深めてもらうとともに、地域住民に対して地域医療にける医師の熱い思いや奮闘ぶりを伝えるための広報誌「COCODE Vol.9 (今回は国保水俣市立総合医療センター等を特集し掲載)」を2月に発刊しました。

●ホームページ、メールマガジンによる情報発信等(通年)

機構が実施する講演会等の取り組みや前述の広報誌「COCODE」の電子版を支援機構のホームページに掲載し、情報発信するとともに、支援機構のメールマガジンの登録者に対してダイレクトに情報提供に努めました。

●熊本臨床研修アライアンスの活動の支援

熊本臨床研修アライアンスは、熊本県内で働く35歳以下の若手医師数が全国ワーストという危機的状況にあることを踏まえ、熊本大学病院をはじめ熊本県内の14の臨床研修病院がタッグを組み、臨床研修の質を向上させ、専攻医として熊本で研修する若手医師を増やし、熊本県の医療体制の充実を図ることを目的に令和7年3月に組織されました。

この熊本臨床研修アライアンスの活動は、機構の事業活動とも整合することから、熊本臨床研修アライアンスの事務局的な役割を機構が担い、積極的に活動の支援を行っています。

具体的な活動として、令和7年度は、県内の臨床研修プログラムを周知広報することとし、医学部学生や臨床研修医を主な対象に、専門研修プログラムの説明会を令和7年7月12日と令和8年2月11日の2回開催し、熊本県の各臨床研修病院や熊大病院の各診療科が、専門研修プログラムの特色やキャリア形成の特長などを説明し広報を行いました。



熊本大学病院 総合診療科 下地俊先生(左)
熊本大学医学部医学科5年 増永真由さん(中央)
熊本大学医学部医学科5年 福岡真也さん(右)

Why GP?!

くすのぎテラス
熊本大学病院



若手医師×学生二人座談会 総合診療医のリアルを直撃 「教えて先輩!」

日々学びを続ける医学生が抱える疑問や不安を、実際に総合診療医として活躍している若手医師に直撃する人気企画!今回は熊本大学病院総合診療科の下地俊先生に、学生二人が総合診療医のリアルについて聞きました。

総合診療科のやりがい
総合診療科は、患者さんの病状を総合的に把握し、適切な診療を行うことが目的です。内科、外科、小児科、産婦人科など、さまざまな診療科と連携して、患者さんの健康を守る役割を担っています。また、地域医療の発展に貢献するため、在宅医療や地域連携にも力を入れています。

総合診療科のやりがい
総合診療科は、患者さんの病状を総合的に把握し、適切な診療を行うことが目的です。内科、外科、小児科、産婦人科など、さまざまな診療科と連携して、患者さんの健康を守る役割を担っています。また、地域医療の発展に貢献するため、在宅医療や地域連携にも力を入れています。

総合診療科のやりがい
総合診療科は、患者さんの病状を総合的に把握し、適切な診療を行うことが目的です。内科、外科、小児科、産婦人科など、さまざまな診療科と連携して、患者さんの健康を守る役割を担っています。また、地域医療の発展に貢献するため、在宅医療や地域連携にも力を入れています。

総合診療科のやりがい
総合診療科は、患者さんの病状を総合的に把握し、適切な診療を行うことが目的です。内科、外科、小児科、産婦人科など、さまざまな診療科と連携して、患者さんの健康を守る役割を担っています。また、地域医療の発展に貢献するため、在宅医療や地域連携にも力を入れています。



13 CICODEI

COCODEI 14

地域に根ざし、医師として、人として、成長できました。



「人に寄り添う医療をめざし、歩み続ける」 阿蘇医療センター 胃腸内科 医師 濱口亜実

濱口先生は、熊本大学医学部医学科の地域枠学生として、熊本県から医学の道を歩み、医師としての道を歩んでいます。地域医療に貢献するため、地域に根ざし、医師として、人として、成長できました。

濱口先生は、熊本大学医学部医学科の地域枠学生として、熊本県から医学の道を歩み、医師としての道を歩んでいます。地域医療に貢献するため、地域に根ざし、医師として、人として、成長できました。

濱口先生は、熊本大学医学部医学科の地域枠学生として、熊本県から医学の道を歩み、医師としての道を歩んでいます。地域医療に貢献するため、地域に根ざし、医師として、人として、成長できました。

濱口先生は、熊本大学医学部医学科の地域枠学生として、熊本県から医学の道を歩み、医師としての道を歩んでいます。地域医療に貢献するため、地域に根ざし、医師として、人として、成長できました。



濱口先生の9年間の勤務先

年度	勤務先
2016.4.1～2016.3.31	阿蘇医療センター 胃腸内科
2016.4.1～2016.3.31	阿蘇医療センター 胃腸内科
2016.4.1～2016.3.31	阿蘇医療センター 胃腸内科
2016.4.1～2016.3.31	阿蘇医療センター 胃腸内科
2016.4.1～2016.3.31	阿蘇医療センター 胃腸内科
2016.4.1～2016.3.31	阿蘇医療センター 胃腸内科

COCODEI 16

15 CICODEI



3 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要

「地域医療・総合診療実践学寄附講座」は、平成28年4月に「地域医療システム学寄附講座」の後継講座として設置されました。その後、本県における医師の地域偏在の解消や地域医療の充実、地域医療を担う医師の育成を推進するため、設置期間の延長が重ねられ、令和7年度は第4期の初年度となりました。

本講座では、地域医療を担う医師の養成を目的として、これまでの調査研究や教育実践の成果を踏まえ、医学生や若手医師に対する卒前からの一貫した地域医療教育、総合診療医の育成及び地域医療実践教育拠点の運営などに取り組んでいます。

令和7年度においても、熊本大学医学部医学科の学生（熊本県医師修学資金貸与学生を含む。）や若手医師を対象に、地域医療マインドの涵養に向けた教育を実施するとともに、総合診療専門医の育成に向けて県内公的病院等との連携を推進しました。また、県北及び県南地域に設置した教育拠点を活用し、地域医療機関への診療支援を行うなど、地域医療の充実に取り組みました。

【主な取り組み】

1. 調査研究
2. 教育活動（卒前教育（カリキュラム内、カリキュラム外）、卒後教育）
3. 教育拠点への支援
4. 地域医療支援

【スタッフ】

熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

- ・ 特任教授 荒木 智（総合診療科）
- ・ 特任助教 佐土原道人（総合診療科）
- ・ 特任助教 北村 泰斗（総合診療科）
- ・ 事務補佐員 山並 美緒、木口知佳子

くまもと県北教育拠点（くまもと県北病院）

- ・ 特任助教 平賀 円（総合診療科）

河浦教育拠点（天草市立河浦病院）

- ・ 特任助教 鶴田 真三（総合診療科）

熊本大学病院 総合診療科

- ・ 教授 松井 邦彦
- ・ 医員 松田 圭史、下地 徹

総合診療専門研修プログラム専攻医

- ・ 本田 宏介
- ・ 西富 友哉
- ・ 足立 瑛彦
- ・ 田添 英典
- ・ 藤本 千里
- ・ 木下 聡
- ・ 國行 浩平
- ・ 安川 賢司

2. 活動報告

(1) 調査研究

① 地域医療実習教育に関する調査研究

修学資金貸与学生のキャリア形成支援や地域定着要因の分析を目的として、地域医療特別実習の教育的効果に関するアンケート調査を継続して実施しています。

令和6年度に実施した地域医療特別実習のアンケート結果については、令和7年5月に開催された米国総合内科学会において発表しました。また、実習に参加した学生が、参加者の視点から実習の経験や学びについて取りまとめ、同年6月に札幌市で開催された「第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会」で発表を行いました。

② 研究公正・倫理の学修コンテンツ開発に関する研究

令和7年度から、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の研究倫理・社会共創推進プログラム「公正な臨床研究の基盤となる解決型事例教材と研究計画・解析ネットワークの普及に関する研究開発」において、分担研究機関として研究開発に取り組んでいます。

③ 教育拠点での教育効果についての検証

熊本大学病院総合診療科と各教育拠点は、総合診療専門研修プログラムの基幹施設及び連携施設として連携し、総合診療専攻医の育成に取り組んでいます。また、指導医及び総合診療専攻医が、初期臨床研修医や医学生に対する地域医療・総合診療実習の指導も行っています。

令和7年度は、くまもと県北病院教育拠点到専攻医1名（通年）、天草市立河浦病院教育拠点到専攻医2名（通年1名、6か月間1名）を配置しました。また、レジデントデイ等の定期的な機会を活用して教育効果に関する意見聴取を行うとともに、プログラム管理委員会において検証・協議を行い、研修プログラムの質の向上に取り組みました。

(2) 卒前教育(カリキュラム外)

① 修学資金貸与学生の支援

将来、地域の医療機関で勤務する貸与学生に対し、一人ひとりの状況に応じた助言や相談対応を行うため、令和7年6月に地域医療支援機構と連携して面談を実施しました。地域医療・総合診療実践学寄附講座の教員が貸与学生36名を対象に面談を行い、県外大学に在学する2名を除き、全員対面形式で実施しました。

面談では、生活状況や将来の希望等について聞き取りを行い、学生それぞれの状況に応じた生活面や学習面に関する助言を行いました。特に6年生に対しては、将来のキャリアプランや進路希望を踏まえ、義務履行とキャリア形成の両立に向けた具体的な助言を行いました。

また、貸与医師が義務履行状況を適切に把握できるよう、年度当初に貸与医師全員（68名）に対して、知事指定病院等での勤務状況及び義務履行状況を文書で通知しました。

② 地域医療ゼミ

地域医療ゼミは、貸与学生及び熊本県出身の自治医科大学医学部生を対象に、地域医療への理解を深め、地域医療マインドを涵養することを目的として開催しており、令和7年度は計11回実施しました。

（詳細については28ページを参照）

＜令和7年度地域医療ゼミ実施スケジュール＞

開催日	内容
4月17日(木)	オリエンテーション(対面)
5月15日(木)	学生企画:熊大医学科サバイバル(CBT/OSCEほか)
6月19日(木)	学生企画:シネメデュークेशन「はたらく細胞」
7月17日(木)	夏季地域医療特別実習説明
8月19日(火)～20日(水)	夏季地域医療特別実習(水俣・芦北地域)
9月18日(木)	学生企画:卒業医師講演
10月16日(木)	学生企画:臨床推論的な…動画CLIP使って
11月13日(木)	学生企画:＊地域医療総合演習の一環で熊大地域枠より提供
12月18日(木)	自治医科大学生企画(オンライン)
1月22日(木)	学生企画:解剖学びなおし
2月19日(木)	センター企画:制度とキャリア
3月24日(火)	追いゼミ 1年間の総括

③ 夏季地域医療特別実習及び冬季地域医療特別実習

地域医療特別実習は、貸与学生及び自治医科大学生(熊本県出身者)のキャリア形成支援の一環として、地域医療マインドの醸成等を目的に、地域医療・総合診療実践学寄附講座と連携し、毎年度県内各地域で実施しています。令和7年度は、夏季(8月)及び冬季(12月)の2回実施しました。

夏季実習は、8月に水俣・芦北地域(水俣市、芦北町、津奈木町)において1泊2日の日程で実施し、過去最多となる41名(貸与学生29名、自治医科大学生12名)が参加しました。また、冬季実習は、12月に玉名地域(玉名市、和水町)において1泊2日の日程で実施し、夏季実習に参加できなかった貸与学生3名が参加しました。

夏季・冬季実習ともに、実習協力機関の関係者や地域医療に従事する先輩医師等との懇談会・意見交換会を開催しました。参加した学生にとって、地域医療への理解を深めるとともに、多くの学びを得る充実した実習となりました。

(詳細については31ページ参照)

(3) 卒前教育(カリキュラム内)

熊本大学医学部のカリキュラムとして、①医学科4年次学生を対象にした総合診療学、②医学科5年次学生を対象とした選択科目の地域医療総合演習、③医学科5・6年次学生を対象にした特別臨床実習(総合診療科)を担当しました。

① 総合診療学

4年次の学生に対して、全10コマの講義を下記のとおり実施しました。

＜令和7年度総合診療学実施スケジュール＞

実施日	科目	内容	担当教員
4月8日	総合診療学概論1	総論	松井 邦彦
4月15日	総合診療学概論2	臨床推論	佐土原道人
4月22日	総合診療学概論3	身体診察	佐土原道人
5月13日	総合診療学概論4	診療ガイドライン・EBM	荒木 智
5月20日	総合診療学概論5	家庭医療学:総論・患者中心性プライマリリア	高柳 宏史
5月27日	総合診療学概論6	家庭医療学:継続性・包括性	高柳 宏史
6月3日	総合診療学概論7	高齢者ケア、地域包括ケア	鶴田 真三
6月10日	総合診療学概論8	ライフサイクル/ステージ/ライフイベントと医療/ワークライフバランス	堤 龍子
6月17日	臨床推論演習1	体重減少	北村 泰斗
6月24日	臨床推論演習2	倦怠感 他	平賀 円

② 地域医療総合演習

地域医療総合演習は、医師が地域医療に従事する際に求められる医療者教育の実践に必要な知識・能力の修得を目的として、令和5年度から開講した医学科5年次の選択科目です。令和7年度は4名の学生が履修しました。

令和7年度は「意識障害の評価」をテーマに設定し、JCS及びGCSの理解と疑似症例の評価ができることを到達目標として、担当教員（高柳宏史特任講師）を中心にカリキュラムを実施しました。

前半は教育計画書作成や教育評価に関する基礎知識の習得及びワークショップを実施し、11月の地域医療ゼミにおける教育実践に向けた準備を行いました。その後、地域医療ゼミにおいて受講生に対する教育実践を行い、最終回では受講生アンケート結果の分析や実践の振り返りを通して、カリキュラム評価を実施しました。

<令和7年度地域医療総合演習実施スケジュール>

実施日	内容
4月10日	教育計画書作成のための基礎知識
5月8日	教育テーマ決定、教育方略・ファシリテーション
6月12日	事前アンケート作成に関して、教育評価について
7月10日	教育評価について(Ws)
9月11日	教育演習に向けて、役割分担・準備
10月9日	教育実習にむけて、スライド最終チェック、事後アンケート作成
11月13日	地域医療ゼミ(教育演習)
12月11日	カリキュラム評価、事後アンケート集計・分析・考察・振り返り

③ 特別臨床実習(総合診療科)

令和7年度は、大学病院及びくまもと県北・河浦の各教育拠点の3か所において、医学科5・6年生延べ19名の学生を受け入れ、臨床実習を実施しました。

④ その他の講義

その他、以下の授業を担当しました。

- | | | |
|---------------------|------------------|-------------------|
| ・医学総論(1学年)※ファシリテーター | ・臨床実習入門医療面接(4学年) | ・PostCC/OSCE(6学年) |
| ・医行為実習(2学年) | ・行動科学Ⅱ(4学年) | ・IGD/IGE(6学年) |
| ・臨床医学Ⅰ(2学年) | ・公衆衛生学(4学年) | |

(4) 卒後教育

① 地域医療に従事する修学資金貸与医師への支援

令和7年度は、修学資金貸与医師68名のうち、県外の医療機関に勤務する1名を除く67名が県内の医療機関で医師業務に従事し、このうち15名が医師確保が特に困難な第2グループの病院に勤務しました。

また、地域医療支援機構と連携し、貸与医師全員を対象に面談を実施しました(県外勤務の1名を除き全員対面で実施)。面談では、専門医としてのキャリア形成と義務履行の両立が図られるよう、個々の状況に応じた助言を行いました。

② 臨床研修(初期研修)医に対する指導

熊本大学病院群初期臨床研修プログラムにおいて、総合診療科を選択した臨床研修医に対し内科分野及び外来研修の教育指導を行っています。令和7年度は対象者はいませんでした。

③ 専攻医に対する指導

令和7年度は、8名の専攻医が熊本大学病院総合診療専門研修プログラムに基づき、各基幹施設及び連携施設において勤務しました。寄附講座では、地域で必要とされる総合診療医の育成に向けて、レジデントデイ等の取組をはじめ、様々な機会を通じて専攻医に対する指導を行いました。

●レジデントデイの開催

寄附講座では、専攻医の研修修了要件であるポートフォリオ(経験省察研修記録)の作成指導等も行っており、令和7年度においては、テレビ会議システムを活用したオンラインによる開催も含めて4回のレジデントデイを開催し、専門研修の進捗状況の確認を図り、よりきめ細かい指導を行うとともに、プログラム修了に向けてさらに丁寧な指導に心がけました。

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 第1回:令和7年4月12日(土) 15:30 | 熊本大学病院 山崎記念館 |
| 第2回:令和7年7月16日(水) 19:00~ | (オンライン開催) |
| 第3回:令和7年9月10日(水) 21:00~ | (オンライン開催) |
| 第4回:令和7年10月29日(水) 19:00~ | (オンライン開催) |
| 第5回:令和8年1月17日(土) 16:00~ | 臨床医学研究棟 カンファレンスルーム |

④ 専門医資格取得後のキャリア支援

専門医資格取得後も、熊本大学病院総合診療科では、大学病院の特性を活かし、臨床・教育・研究の各分野において個別ニーズに応じたキャリア支援を実施しています。総合診療専門医取得後の5年間を指導医取得に向けた重要な期間と位置づけ、継続的な支援に取り組んでいます。

令和7年度は、熊本県内の連携医療機関の協力のもと、専門医取得後の多様なニーズに応じて、総合診療領域外を含む関連分野での研修支援を行いました。また、地域医療の現場においてカンファレンスや相談対応を行うとともに、英語論文の執筆支援にも取り組みました。

さらに、大学院進学を希望する医師に対しては、臨床経験を踏まえた臨床研究の推進や学位取得に向けた指導を行いました。令和7年度は社会人大学院生5名が在籍し、それぞれの研究に取り組みました。

⑤ 総合診療グランドラウンド等の開催

若手医師に総合診療の魅力を伝えながら総合診療プログラムを周知し、熊本大学病院の総合診療の知名度向上を図るとともに、県内外の総合診療医の連携・強化を図ること等を目的に次の取組みを行いました。

●「米国集中治療専門医による回診とコンサルテーション」

開催日: 6月28日 ~ 6月30日 入院患者コンサルテーションと回診

指導者: Professor of Medicine Mayo Clinic College of Medicine and Science
Kannan Ramar 先生(メイヨー・クリニック医学・科学大学 医学教授)

●第23回総合診療グランドラウンド

開催日：10月20日

テーマ1：「いつでもどこでも始められるところのケア」

岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 看護科学分野 教授 原田奈穂子先生

テーマ2：「30分で学べる傾聴スキルbeyond」

岡山大学学術研究院医歯薬学域 地域医療共育推進オフィス 特任准教授 香田 将英 先生

●第24回総合診療グランドラウンド

開催日：令和8年1月23日

テーマ1：「トップジャーナル掲載への戦略と思考法」

兵庫医科大学社会医学データサイエンス部門 主任教授 森本 剛 先生

テーマ2：「市中病院の単施設後ろ向きデータをJGIMに通した話」

神戸市立医療センター西市民病院 総合内科 副医長 濱崎 健弥 先生

⑥ 総合診療医育成のためのPR活動

＜SNSやホームページを活用した総合診療科のPR＞

熊本大学病院の新たな診療科として令和3年3月に設置された総合診療科について、総合診療の魅力や必要性、重要性への理解促進を目的に、InstagramやFacebook等のSNSを活用し、診療活動等を広く発信しています。

＜熊本大学病院総合診療科ホームページの運用＞

令和5年度に開設した総合診療科のホームページを引き続き運用し、寄附講座ホームページとの連携（リンク掲載）を通じて、総合診療の魅力等に関する理解促進のための情報発信を行いました。

ホームページ



Instagram



⑦ 総合診療特別研修プログラムの提示

令和2年度に新たなキャリア支援策として、専門研修に進む卒後3年目以降の貸与医師等を対象に、専門研修プログラム開始前に知事指定病院の第2グループ病院において「総合診療特別研修プログラム」に参加し、義務履行を優先的に進めることができる体制を構築しました。

令和4年度からは「熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム」にも位置づけ、受入体制を整備していますが、令和7年度までの適用実績はありません。

3. 教育拠点

【設置目的】

地域医療に貢献できる医師の養成を円滑に行うとともに、地域における診療活動を通じた教育・研究を推進し、熊本県内の地域医療の再生に資することを目的として、地域医療・総合診療実践学寄附講座教育拠点を設置しています。

令和3年4月に河浦病院（天草市）に河浦教育拠点を設置し、さらに同年10月には、公立玉名中央病院の組織改編に伴い「くまもと県北病院」となったことから、従来の玉名教育拠点に代えて「くまもと県北教育拠点」を新たに設置しました。

各教育拠点には当寄附講座から教員を配置し、地域医療機関において必要とされる医療を提供するとともに、専門研修医、初期臨床研修医及び医学生に対する教育・研究を行う拠点として、引き続き重要な役割を担っています。

【役割】

- ① 総合診療専門医の養成
- ② 熊本大学病院の臨床研修協力型病院として臨床研修医の教育
- ③ 自治医科大卒医師（自治医）の指導・教育
- ④ 総診特別プログラムに従事する医師の指導
- ⑤ 義務償還のために地域の施設で総合診療医として勤務する他の診療領域の修学資金貸与医師の指導
- ⑥ 医学部学生の教育（臨床実習の受入れ）
- ⑦ 病院での臨床に即した研究、地域医療のあり方、教育や人材育成に関する研究、調査

【教育活動】

くまもと県北教育拠点では、熊本大学医学部学生を対象とした総合診療科特別臨床実習及び地域医療特別実習の受入れを行うとともに、基幹型臨床研修施設及び熊本大学病院等の協力医療機関として、臨床研修医の受入れを行っています。また、熊本大学病院総合診療専門研修プログラムの専攻医 8 名が、指導医の下で研修に従事しました。

さらに、卒前教育として、同拠点で臨床実習（クリクラ）を行った学生が成果発表をオンライン（テレビ会議）で実施し（TMEC）、熊本大学病院地域医療支援センターの教員及び指導医が評価・助言を行いました。

河浦教育拠点では、教員 1 名が常駐し、病院での診療に従事するとともに、総合診療特別実習の学生受入れ及び実習指導を行いました。また、総合診療専門研修プログラムの専攻医 2 名が、教員の指導の下で実地研修に従事しました。

なお、天草教育拠点については、令和 4 年以降、後任の教員配置がない状況となっています。

(1) くまもと県北教育拠点報告

くまもと県北病院は熊本市の隣に位置する玉名郡市の基幹病院であり、402床を有する玉名郡市唯一の高度救急病院です。ただ周囲に後方支援病院が少ないことから急性期から慢性期まで対応しています。総合診療科も、敗血症性ショックなどの集中治療が必要な患者や、その他感染症、心疾患、自己免疫性疾患から社会的に問題ある患者など幅広い問題に対応しています。

2022年度以降当科の入院患者数は上昇しており2025年度も述べ患者数807人と過去最高を更新しました。そんな中、医学教育にも力を入れており熊本大学医学部の臨床参加型臨床実習や当院、他院の初期研修医、熊本大学総合診療専門医プログラム専攻医を受け入れています。2025年度は当院初期研修プログラムへの応募者のうち半数近くが当科での実習経験者であり、その割合も年々増加していることから学生実習に力をいれている効果が表れてきていると考えています。そして、昨年度の初期研修プログラムはフルマッチを達成しました。また、2025年度の医学教育学会にて当科で行っている臨床実習を紹介したところ、杏林大学から学外実習の協力要請をいただき、2026年度以降に同大学の学生を受け入れる方針となりました。

診療体制については3名の外勤の先生の力を借りて連日新患外来と再診外来を行いました。当科が担当する患者のほとんどは入院患者であり、前述のとおり2025年度は過去最高の入院患者に対応いたしました。

なお、セミナーについては2025年度に2回開催しています。6月27日にメイヨークリニックよりラマー先生をお迎えして集中治療、医療安全をテーマに講義をしていただきました。また、10月には岡山大学より香田将英先生をお迎えして「臨床の質をあげる生成AI活用」という講義をしていただいています。どちらも院内の多職種だけでなく実習経験者の学生まで参加いただきました。

以上が当科の2025年度の報告となります。熊本大学地域医療・総合診療実践学寄附講座の教育拠点として専攻医や特任指導医が当科に赴任することにより診療、教育の両面で過去最高の結果を出したと考えています。

＜2021-2025推移＞



(2) 河浦教育拠点報告

【概要】

河浦教育拠点は2021年4月に設置されました。過疎地域の小規模病院におけるプライマリケアタイプの教育拠点です。地域医療を行っていく中で、実践的なレジデント教育を行っています。2025年度は、4月から足立先生、9月から田添先生が赴任し、研鑽をつんできました。また、熊本大学医学部よりクリクラ学生を受け入れています。

【行事】

熊本大学クリクラ学生の受入
赤十字熊本病院初期研修医の受入
セミナー等については下記をご覧ください。

【教育活動】

＜学生＞

熊本大学の特別臨床実習(クリニカルクラークシップ)で実習を受け入れています。

「総合診療」「地域医療」の枠を問わず、僻地のプライマリケアとしての実習を行っています。昨年度に引き続き、社会福祉協議会、地域包括支援センターでの院外実習も行っています。医療だけでなく介護、福祉との連携から地域を見る視点を育み、おおむね学生からも好評です。また、地域の方との交流として、時期が合えば地域探検、釣りなども経験してもらいました。

＜看護学生＞

天草内にある看護学校で数回の授業を担当させていただきました。昨年よりも担当授業数を増やしていただきました。在宅医療、地域医療をテーマにした授業も担当させていただき、天草での医療の楽しさ、充実感を伝えることができたと思います。

＜初期研修医地域医療研修＞

赤十字熊本病院より1か月ずつ3名の研修医が派遣されました。2次医療機関とは違う、限られた資源の中での外来診療、入院診療、そして在宅診療を経験してもらい、それぞれにフィールドの違いによる仕事の視野の違いを感じてもらいました。

＜後期研修＞

2025年度は4月から足立先生、9月から田添先生が赴任しました。外来、入院ともそれぞれの研修の進捗度合いに応じて診療してもらっています。前任の後期研修医から引き継いで、天草地区にある高浜巡回診療所とその近くの施設の専任担当になり、地域の中での巡回診療所運営や施設との連携をメインで行ってもらっています。これは、無医地区の外来診療のみならず、診療所の運営、地域や行政との関り等も学ぶ絶好の機会になっています。

また、院内外での多職種教育や地域活動、地域住民向けのヘルスプロモーション活動なども積極的に取り組んでもらっています。教育や人材育成を学ぶ機会として、上述の看護学校の授業も受け持ってもらいます。

【診療】

月・火・木 鶴田（初診＋再診）

木 田添（サテライト診療所）

金 田添（初診＋再診）

※足立は適宜、新患や受け持ち患者を担当

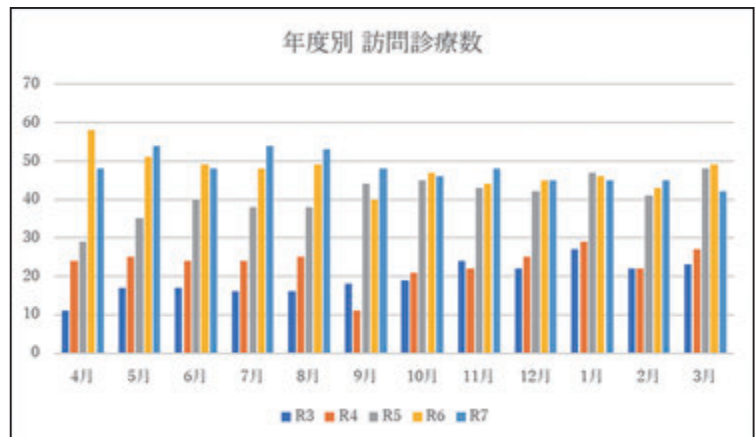
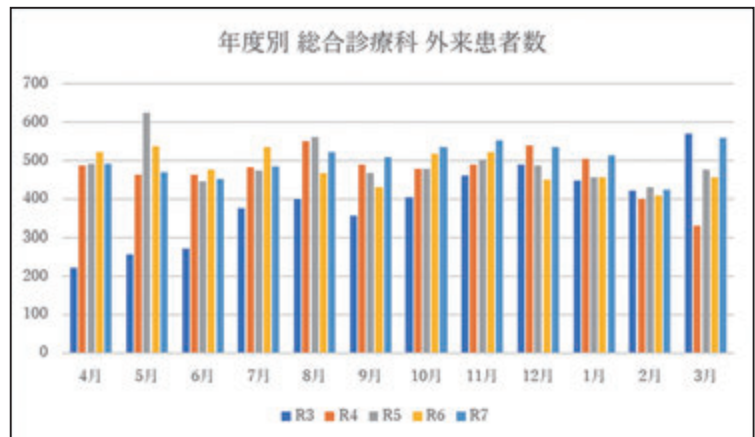
※訪問診療はチームで分担 火・水・金

【年間診療報告】

人口減少に伴い、当院の外来患者数は年々、減少してきています。しかし、総合診療科を受診する外来患者数は昨年度より200名以上増加し過去最多となっています。総合診療科としての当院、当地域への貢献度は年を追うごとに上がってきていると言えます。

訪問診療については、毎年右肩上がりに患者数が増加しており、今年も過去最多を更新しています。

また、患者数のグラフには入っていませんが、天草町にある高浜巡回診療所でも診療を行っており、田添先生にメインで担当していただいています。その他、遠隔診療や訪問診療も行っています。



【セミナー】

院内多職種向け教育活動、住民向け講座を昨年に引き続き継続しています。

また、河浦・天草地区での地域活動を行っているしきちの会の活動や、天草郡市全体の多職種会議（ACT会議）も昨年度から継続しております。

鶴田は熊本県へき地医療医師の会の活動や、公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会における若手の会世話人、食支援部会副部会長の活動も行い、zoomを利用した勉強会の開催なども行っています。

今年度に特別なものとしては、天草郡市看護師研修会の講師を担当したり、天草市で開催された熊本作業療法学会へのブース設置など、院外への啓発、交流活動を活発に行うことが出来ました。

<天草島内での主な活動>

2025年 5 月28日 院内 ACLS 勉強会
 2025年 9 月10日 他院との合同症例検討会
 2025年10月 9日 院内 ACP 勉強会
 2025年11月 6日 保健所 ACP 勉強会
 2025年11月21日 多職種連携勉強会(患者急変時の連携について)
 2026年 2 月 1日 熊本作業療法学会ブース設置
 2026年 3 月28日 一町田さくら祭
 ※その他、zoom 等で他施設と合同で各種勉強会等を開催

4. 地域医療支援の状況

河浦教育拠点及びくまもと県北教育拠点においては、それぞれ本講座から派遣された医師が、その他の医師不足地域については本講座所属の医師が各病院に対する診療支援を行いました。

この他、熊本県地域医療支援機構／熊本大学病院地域医療支援センターと連携し、本講座及びセンター所属の医師が、大学病院において総合診療科の外来診療を対応するとともに、救急外来等も担当しました。

	医師	支援先医療機関	支援内容
寄附講座教員	松井 邦彦	くまもと県北病院	非常勤 通年(週1回)
	荒木 智	有明医療センター	非常勤 通年(週1回)
		天草中央総合病院	非常勤 通年(週1回)
機構／ センター医師	佐土原 道人	阿蘇医療センター	非常勤 通年(週1回)
	北村 泰斗	くまもと県北病院	非常勤 通年(週1回)
		山都町包括医療センターそよう病院	非常勤 通年(週1回)
	鶴田 真三	天草市立河浦病院	常 勤
		天草地域医療センター	非常勤 通年(週1回)
	平賀 円	くまもと県北病院	常 勤
	高柳 宏史	上天草総合病院	非常勤 通年(週1回)
		御所浦診療所	非常勤 通年(週1回)
	堤 龍子	山都町包括医療センターそよう病院	非常勤 通年(週1回)

4 熊本県医師修学資金貸与学生からの報告

1. 地域医療ゼミ

(1) 概要

現在、熊本県医師修学資金貸与制度を利用している学生は34名おり、毎月1回、地域医療に関する興味・関心を深めることを目的として、学生達で企画した内容を中心に「地域医療ゼミ」を開催しています。今年度、対面での開催を中心に、オンラインの利点も生かしながら全11回のゼミを実施することが出来ました。

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
8人	7人	9人	2人	4人	4人

(2) 活動内容

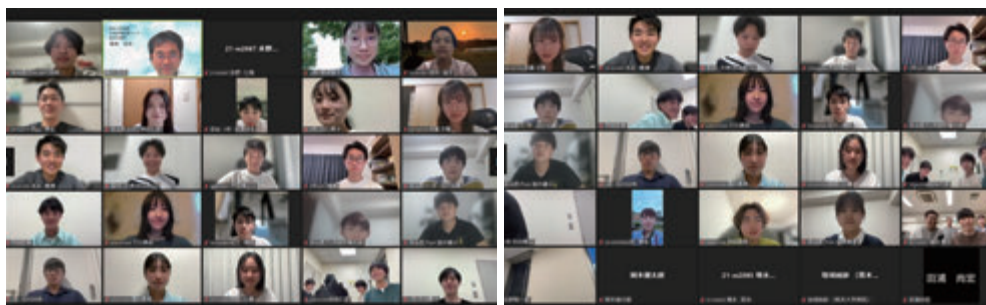
● 第1回「オリエンテーション」2025年4月17日 / 対面にて開催

新たに熊本県医師修学資金貸与学生として入学した1年生8名の紹介と、県庁医療政策課の方から熊本県医師修学資金貸与制度及びキャリア形成プログラムについての説明を行いました。その後、幹事学年が企画したレクリエーション「ito」をグループ毎に行い、学年を超えて親睦を深めることが出来ました。



● 第2回「医学科サバイバル(CBT/OSCE)」2025年5月15日 / オンライン開催

熊医および自治医の5年生が、下級生に対し、臨床実習前に必須とされるCBTとPre-CC OSCEへの取り組み方や、効果的な試験対策について具体的なレクチャーを行いました。レクチャー後には、実践的な問題の出題や活発な質疑応答の時間が設けられ、下級生にとって、今後の学習への具体的な指針を得る良い刺激となりました。



● 第3回「シネマデューケーション」2025年6月19日 / 対面にて開催

今回は、映画「はたらく細胞」を題材として、人体のしくみや健康の重要性を楽しく学ぶことが出来ました。また、地域枠卒の先輩医師である松岡隼平先生にご参加いただき、臨床でも役立つ知識などお話しいただきました。



● 第4回「夏季地域医療実習説明」2025年7月17日/オンライン開催

8月19日・20日の夏季地域医療特別実習について、地域医療・総合診療実践学寄附講座、地域医療支援センターの教職員より事前説明を行いました。参加学生たちは、実習のスケジュール及び訪問地区別の班分けを確認し、班ごとに自己紹介、リーダーの決定、連絡先の交換を行いました。

● 第5回「地域卒卒・自治医卒医師による講演」

2025年9月18日/オンライン開催

本講演では、地域卒卒業医師2名と自治医科大学卒業医師1名の先生方に、それぞれのキャリアパスについてご講演いただきました。初期臨床研修、専門研修、そして義務履行後のそれぞれのステージにおけるワークライフバランスについて、具体的かつ詳細なお話をお聞かせくださいました。



● 第6回「臨床推論」2025年10月16日/対面にて開催

今回は、ドラマ「19番目のカルテ」の動画クリップを教材として取り上げ、臨床推論の進め方について学びました。低学年の参加者にも理解しやすいよう工夫された説明がなされ、専門的な「臨床推論」に対する理解が深まるとともに、将来的な学習への興味を喚起する有意義な機会となりました。



● 第7回「今日からデキる！意識障害」2025年11月13日/対面にて開催

5年生の選択カリキュラム「地域医療総合演習」の教育セッションとして実施しました。5年生が講師を務め、レクチャー後、グループワークでの例題に取り組み、その後、個人毎に試験問題に取り組みました。参加学生にとっては、JCS/GCSへの理解が深まる機会となり、5年次にとっては指導する側に立つという経験から多くを学ぶ機会となりました。



● 第8回「自治医科大生企画～災害医療について～」2025年12月18日 / オンライン開催

自治医科大生の企画を実施しました。地域での災害医療に従事経験をもつ先輩医師に事前インタビューした内容を共有した後、地域医療における災害対応のグループワークを実施しました。将来の従事者として、災害時の対応や必要な備えを具体的に議論し、災害医療への理解を深める有意義な機会となりました。



● 第9回「解剖学びなおし」2026年1月22日 / 対面にて開催

今年度解剖実習を終え2年生を中心に作成した問題にグループで取り組みました。下級生にとっては、基礎知識の習得に留まらず、上級生から臨床における解剖学の重要性を学ぶ貴重な機会となりました。



● 第10回「制度とキャリア」2026年2月19日 / 対面にて開催

当センター教員高柳先生による講話では、自己評価のワークを行いキャリア形成について自身の価値観をアウトプットする機会となり、専門医制度について専門領域選択の流れを理解できたとの声が上がりました。次に、県庁医療政策課の担当者から医師修学資金貸与制度について説明が行われ、内容を再確認する機会となりました。



● 第11回「追いゼミ」2026年3月24日 / 対面にて開催

今年度最後となったゼミでは、地域医療総合演習や夏季・冬季特別実習の報告、皆勤賞・功労賞の表彰、卒業生代表挨拶が行われました。あわせて、次年度の幹事学年代表の紹介や実施計画についても説明がなされ、新年度への橋渡しとなる充実した時間となりました。その後の「追いコン」では、卒業生の挨拶や花束贈呈が行われ、6年生との別れを惜しみつつも、笑顔の絶えない思い出深い一日となりました。





2. 地域医療特別実習

【概要】

本実習は、熊本大学病院 地域医療支援センター及び地域医療・総合診療実践学寄附講座が、熊本県地域医療支援機構と連携し、熊本県医師修学資金貸与学生及び熊本県出身の自治医科大学医学部生を主な対象に、将来、熊本県の地域医療に携わる医学生が、県内の地域（熊本市を除く）を訪れ【地域を知る】ことに視点を置いた企画・構成で、毎年、実施しております。

また、この実習では、実地でのフィールドワーク等を通して、地域の医療・保健・福祉等の現状や課題について学ぶことで、参加学生が多方面から広く地域を知り、地域との関係性を構築するとともに、地域医療に取り組む学生の意欲を醸成し、今後のキャリア形成に資することができるような企画・構成を心がけて取り組んでおります。

今年度、夏季は水俣・芦北地域（水俣市、芦北町、津奈木町）で実施し、大学カリキュラムや大会出場等で夏季実習に参加できなかった学生を対象とした冬季実習を玉名市・和水町にて行いました。

【夏季実習】

8月19日（火）～8月20日（水）の一泊二日の日程で、水俣・芦北地域（水俣市、芦北町、津奈木町）において実施し、過去最多の貸与学生29名、自治医科大学学生12名の計41名が参加しました。

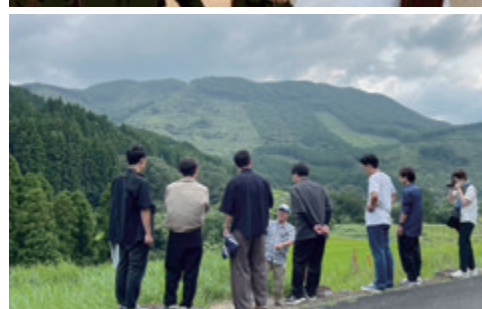
協力拠点病院の水俣市立総合医療センターでは、水俣保健所長より「地域保健活動における保健所の役割」をテーマに、衛生行政の基本的な考え方や具体的な取り組みについて講話が行われたほか、水俣市立

総合医療センター院長により病院の概要や地域特性についての紹介や、地域医療の中で同院が果たしている役割についてお話をいただきました。

その後、5グループに分かれフィールドワークを行い、地域の医療機関や高齢者施設、まちづくり関連施設などを訪問し、実際の現場を見学・体験することで、地域医療が多様な関係機関の連携によって支えられていることを体感しました。

発表会では、学生らが実習で学んだ成果等をグループ毎に発表し、実習に協力いただいた行政機関や街づくり団体の方々との意見交換も行いました。

- 実施日程：2025年8月19日（火）、8月20日（水）
- 実習地域：水俣・芦北地域（水俣市、芦北町、津奈木町）
- 参加学生：熊本県医師修学資金貸与学生 29名、
自治医科大学医学部生 12名



●実習スケジュール 1日目（8/19）

時間	行程	詳細（場所等）
8：00	集合	熊本大学病院
8：15	移動	熊本市 → 水俣市
10：00	講話	水俣市立総合医療センター 講話①：「地域活動における保健所の役割」 水俣保健所 所長 林田 由美 氏 講話②：「水俣市立総合医療センターについて」 水俣市立総合医療センター 院長 阿部 道雄 先生
12：00	フィールドワーク	A班：水俣市A（山間部） B班：水俣市B（市街地） C班：水俣市C（臨海部） D班：津奈木町 E班：芦北町
17：00	帰着・休憩	宿舎
18：30	懇談会・意見交換会	湯の児温泉 海とタヤケ コンベンションホール「湯の児」
20：00	全体発表会準備	
23：00	就寝	

2日目（8/20）

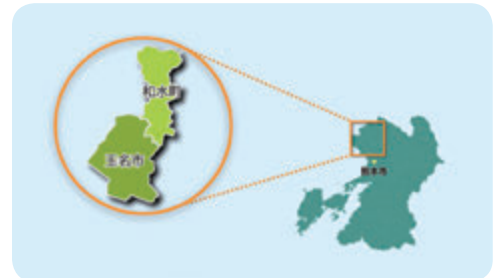
時間	行程	詳細（場所等）
8：20	移動	宿舎 → 水俣市立総合医療センター
8：50	全体発表会	水俣市立総合医療センター
11：40	移動	水俣市立総合医療センター → 昼食会場
12：10	ランチミーティング	福田農場
13：30	移動	昼食会場 → 地域視察
13：30	地域視察①	水俣病資料館 伝え手（語り部）による講話、館内見学
14：50	地域視察②	熊本環境センター 講話、館内見学
15：30	移動	水俣市 → 熊本市
17：30	帰着・解散	熊本大学病院



【冬季実習】

12月23日(火)～12月24日(水)の一泊二日の日程で、玉名市・和水町において実施し、夏季実習に参加できなかった貸与学生3名が参加しました。有明保健では、保健所長より「日常の公衆衛生活動の延長線上にある災害時対応」をテーマに、保健所が果たす役割や医療機関との連携の重要性について講話が行われました。また、くまもと県北病院では、院長の挨拶に続き、医師による実践的な講義が行われ、具体的な事例を通して「患者中心の医療」について主体的に考える機会となりました。さらに、高齢者施設やまちづくり関連施設の見学を通じて、地域医療の現場を多角的に体感しました。

- 実施日程：2025年12月23日(火)、12月24日(水)
- 実習地域：玉名地域(玉名市・和水町)
- 参加学生：熊本県医師修学資金貸与学生 3名



●実習スケジュール

1日目(12/23)

時間	行程	詳細(場所等)
8:15	集合	熊本大学病院
8:30	移動	熊本市 → 玉名市
10:00	講話	有明保健所 「日常の公衆衛生活動の延長線上にある災害対応」 熊本県有明保健所 兼 山鹿保健所 所長 服部 希世子 先生
11:15	講話	くまもと県北病院 「くまもと県北病院及び玉名地域に関する講話」 くまもと県北病院 総合診療科 医長 中村 孝典 先生
12:30	ランチ ミーティング	道の駅 きくすいロマン館
13:45	地域視察	江田船山古墳公園・肥後民家村(和水町)
15:00	見学	特別養護老人ホーム きくすい荘
16:30	休憩・発表 準備等	宿舎
18:30	懇談会・ 意見交換会	中国料理 煌



2日目(12/24)

時間	行程	詳細(場所等)
8:15	移動	宿舎 → くまもと県北病院
8:30	成果報告会 準備	くまもと県北病院
9:00	成果報告会・ 講評	くまもと県北病院
10:00	移動	玉名市 → 熊本市
11:30	帰着・解散	熊本大学病院



3. 卒業生の声

※五十音順掲載

緒方 紫音

(琉球大学医学部医学科 卒業)

「これまでを振り返って」

琉球大学での8年間は、途中2年間の留年も経験し、決して順調とは言えない学生生活でした。周囲の方々にご迷惑をおかけしたことも多く、振り返ると反省すべき点は少なくありません。それでも、実習や部活動を通して充実した日々を送り、少しずつではありますが、自分なりに成長してくることができたのではないかと感じています。

その中で、熊本大学の地域医療ゼミに所属できたことは、自分にとって大きな転機の一つでした。普段は遠隔での参加が中心でしたが、夏季や冬季に実際に現地を訪れた実習は特に強く印象に残っています。主体的学びとしてフィールドワークを行い、地域で働く医師の方々や多職種の方のお話を直接伺う中で、「地域で求められる医師とは何か」を具体的に考えるようになりました。座学では学びきれない現場の工夫や葛藤に触れたことで、医療を“自分ごと”として捉える感覚が強くなったように思います。何より、実習が終わった後も続くモチベーションになりました。

また、自治医科大学の学生さんや、熊本大学の後輩たちと話す機会も、自分にとって大きな刺激でした。自分よりも明確な目標やビジョンを持っている

姿に触れるたびに、自身の未熟さを実感すると同時に、「もう少し頑張ってみよう」と思える原動力にもなっていました。

こうした経験を通して、医師としての理想像はまだ模索の途中ではありますが、目の前の患者さんや地域にしっかり向き合い続けられる医師でありたいという思いは強くなりました。今後晴れて医師になった暁には、幅広い診療能力を身につけながら、働く土地で必要とされる役割を一つずつ果たしていけるよう努力していきたいと思います。

最後になりましたが、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方、スタッフの皆様をはじめ、これまで支えてくださった多くの方々に心より感謝申し上げます。

高吉 晃輔

(鹿児島大学医学部医学科 卒業)

「大学卒業に寄せて」

このたび大学を卒業するにあたり、学生生活を振り返る機会をいただきました。思えばうまくいわずに投げ出したくなったことも一度や二度ではなく、回り道も沢山してしまいました。それでもどうにか卒業し医師になることができたのは、地域医療・総合診療実践学寄附講座や地域医療支援センターの皆様をはじめとする多くの方のご指導やご支援のおか

げであることは言うまでもありませんが、特に大きな支えとなったことを振り返りたいと思います。

私は低学年次の座学は苦手で、自分は医者に向いていないのではと自信を喪失していました。しかし高学年次の臨床実習では、話し好きなことが担当患者さんとのコミュニケーションに大いに役立ち、多少の評価をいただけるようになりました。その中でも、Kさんという担当患者さんは私が話し相手になることを大変喜んでくださり、最終日にはお手紙もいただきました。それ以来、自分の進路選択は間違っていなかったと少しばかり自信を持てるようになりました。

残念ながらその後Kさんは亡くなられてしまったのですが、心が折れそうになるたびに頂いたお手紙を読み返して、自分を奮い立たせてきました。実習の後も失敗続きでしたが、天国のKさんに顔向けできない結果にはなりたくないという思いが、なんとか私を繋ぎとめてくれていました。そしてこのたび、ついにKさんに良い報告ができることになりました。

ひょっとしたら現在、かつての私と同じように自信を失い悩んでいる下級生もいるかもしれません。しかし、これから先、あなたの存在を必要とする人や、あなたの強みを活かせる場面が、必ず待っています。私の大学生活は決して誇れるものではありませんが、下級生の皆さんへの何かしらの参考や励みになることを願って、私の経験を紹介させていただきます。

中島 史人

(熊本大学医学部医学科 卒業)

「6年間を振り返って」

私たちの代は、入学と同時にコロナ禍に突入しました。講義はオンラインとなり、部活動も停止、学友と対面で会うことすら叶わない、もどかしい日々からのスタートでした。しかし、制限が緩和されるにつれ学内での交流も活発になり、振り返れば、一歩ずつ充実度が増していく、人生で最も濃密な6年間を過ごすことができた実感しています。

学生生活における最大の財産は、かけがえのない友人たちです。例年であれば入学直後から部活動に打ち込み、特定のコミュニティ内で関係が完結しがちですが、私たちは活動自粛を余儀なくされたからこそ、所属の枠を超えて広く深く交流することができました。各々の部活で成果を上げる者、海外へ挑戦する者、趣味を追求し発信力を高める者。多様な

分野で輝く友人の存在は常に良い刺激となり、私の世界を広げてくれました。学業面においても、互いに助け合い、時に切磋琢磨することで、数々の試験という壁も共に乗り越えることができました。共に学び、遊び、旅をした日々は、卒業を控えた今、何物にも代えがたい大切な思い出です。

4月からは、念願であった医師としての生活が始まります。医師という職業は、人命を預かる大きな責任を伴うものです。学生時代の実習以上に強い緊張感を持ち、この6年間で培った人間性を糧に、真摯に患者さんと向き合ってまいります。また、地域枠の卒業生として、熊本県民の皆様の健康増進に寄与し、熊本の地域医療を支える一助となれるよう邁進する所存です。

最後になりますが、地域医療支援センターの皆様をはじめ、これまで支えてくださった多くの方々に深く感謝申し上げます。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

西山 望

(熊本大学医学部医学科 卒業)

「大学生生活を振り返って」

国家試験の合格発表で自分の受験番号を見つけた瞬間、私は6年前の入試発表を思い出しました。医学の道に進むことが叶った喜びと、これから始まる学びへの期待に胸を膨らませていた当時の心情は、今も鮮明に記憶に残っております。

一方で、コロナ禍の只中で始まった大学生活は、決して平坦なものではありませんでした。入学式の中止をはじめ、実習や課外活動の制限など、多くの機会が制約される状況が続きました。不確実な日々の中で戸惑いを覚えることもありましたが、そのような環境下においても、オンライン講義や交流の機会を模索し、学びの場を維持しようと尽力してくださった方々の支えにより、学修を継続することができました。

私が医師を志した原点には、医療資源の限られた地域で人々の支えになりたいという思いがあります。現時点で専攻する診療科は定まっておりますが、地域医療に資する進路を選択したいと考えております。そのため、臨床実習では、山都、県北、阿蘇、天草といった地域に赴き、現場の医療に直接触れる機会を求めてまいりました。中でも天草の河浦病院での実習では、総合診療医の先生方が幅広い診療領域を担いながら地域医療の最前線を支えておられる

姿に深い感銘を受けました。また、医療者と地域住民との距離の近さ、日常の積み重ねの中で培われる信頼関係が果たす役割の大きさを実感し、地域医療の本質に触れる貴重な経験となりました。

新年度からは熊本赤十字病院にて初期研修を開始いたします。プライマリ・ケアに求められる幅広い知識と的確な診断能力を涵養するとともに、患者から信頼される医師を目指してまいります。これまでの学びと経験を礎に、今後も研鑽を重ねていく所存です。

最後になりましたが、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生およびスタッフの皆様、並びに県庁医療政策課の皆様には多大なるご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。熊本県の医療に貢献できるよう尽力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

平木 亨弥

(熊本大学医学部医学科 卒業)

「6年間を振り返って」

この度卒業を迎えることとなりました、平木亨弥です。入学してから今日まで、多くの方々に支えていただきました。心より感謝申し上げます。地域枠学生として多くの学びの機会をいただいたことに深く感謝するとともに、今後は医師として地域医療に携わる中で、この感謝の気持ちに少しでも応えていきたいと考えております。

私が入学した頃は、新型コロナウイルス感染症の流行の真っ只中でした。対面授業はほとんど行われず、地域医療ゼミもオンライン、部活動も活動停止という状況が続いていました。そのような中、大学4年生の頃に先生方から地域医療ゼミの研究について学会発表のお話をいただき、先輩方の後押しもあり日本プライマリ・ケア連合学会でポスター発表を行う機会をいただきました。低学年の頃には、自分が学会に参加するとは想像もしていませんでしたが、この経験を通して多くの学びを得ることができました。

その後、4年生のときに初めて冬季実習に参加しました。阿蘇・小国地域で行われた実習では、地域の病院や診療所を訪れ、地域医療の現場について学ぶ貴重な機会となりました。また、他学年の地域枠学生や先生方、医療政策課の方々と交流を深めることができたことも、強く印象に残っています。これらの経験を通して学びへの意欲が高まり、その後の臨床実習や卒業試験、国家試験にも最後まで取り組

むことができました。

4月からは出身地である天草地域医療センターで初期研修を行います。一日でも早く医師として成長し、地元天草、そして熊本の地域医療に貢献できるよう精進してまいります。これまで支えてくださった多くの方々への感謝を胸に、これからも熊本の地域医療に真摯に向き合っていきたいと思います。

6年間、本当にありがとうございました。

山口 真子

(熊本大学医学部医学科 卒業)

「大学生生活を振り返って」

大学生生活を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた6年間であったと実感します。入学した年の4月はちょうど第1波の時期であり、入学式は中止。最初の1年間は感染が一時的に落ち着いた1ヶ月弱のみ対面で大学に通うことができましたが、その後はオンライン授業となりました。入学した実感もあまりなく、同級生の顔や名前も分からないまま時間が過ぎていったのを思い出します。2年次には解剖実習を対面で実施していただき、授業も徐々に対面形式へと戻り、友人関係が広がっていったことを大変嬉しく感じました。そして4年次以降は臨床実習をほとんど制限なく行うことができました。実習を通して将来の医師像を考える貴重な機会をいただき、多くの学びと経験を積むことができました。

地域枠学生としての活動についても、コロナの影響で夏季実習も中止となり、特別実習に参加できたのは2回のみでしたが、地域の方々と交流し、その土地の食や景色に触れることでより深く熊本の魅力を知り、熊本への愛着が一層強まりました。また、特別実習を通して地域枠の他学年の方々や自治医科大学の学生とも交流を深めることができ、将来につながる大切な関係を築くことができたと感じております。さらに、幹事学年として地域医療ゼミの運営に携わり、高柳先生のご指導のもと新たな企画を考案し、対面とオンラインを使い分けながら運営できたことは、非常に貴重な経験となりました。

これから始まる初期研修では、患者さん一人ひとりに責任を持ち、真摯に向き合える医師を目指して日々精進してまいります。最後になりますが、6年間支えてくださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

【論文・執筆】

1. Junichi Yamaguchi, MD, PhD¹; Hiroyuki Arashi, MD¹; Nobuhisa Hagiwara, MD, PhD¹, Satoshi Yasuda, MD, PhD^{2,3}; Koichi Kaikita, MD, PhD^{4,5}; Masaharu Akao, MD, PhD⁶; Junya Ako, MD, PhD⁷; Tetsuya Matoba, MD, PhD⁸; Masato Nakamura, MD, PhD⁹; Katsumi Miyauchi, MD, PhD¹⁰; Kunihiko Matsui, MD, MPH¹¹; Hisao Ogawa, MD, PhD¹²; for the AFIRE Investigators. Age-Stratified Effect of Rivaroxaban Monotherapy for Atrial Fibrillation in Stable Coronary Artery Disease. JAMA Cardiol Published Online: August 13, 2025. doi:10.1001/jamacardio.2025.2611.
2. Naoki Chiba MD ^a, Takashi Noda MD, PhD ^a, Kotaro Nochioka MD, PhD ^a, Koichi Kaikita MD, PhD ^b, Masaharu Akao MD, PhD ^c, Junya Ako MD, PhD ^d, Tetsuya Matoba MD, PhD ^e, Masato Nakamura D, hD ^f, Katsumi Miyauchi MD, PhD ^g, Nobuhisa Hagiwara MD, PhD ^h, Kazuo Kimura MD, PhD ⁱ, Kunihiko Matsui MD, MPH ^j, Hisao Ogawa MD, PhD ^k, Satoshi Yasuda MD, PhD ^a, AFIRE Investigators. Medication Adherence and Antithrombotic Therapy Outcomes: Insights From a Post Hoc Analysis of the AFIRE Trial. JACC Asia. 2026 Mar;6(3):329-341. doi: 10.1016/j.jacasi.2025.11.018.
3. Hanatani S, Nakashima N, Ogata F, Yamamoto M, Okuno Y, Yamada T, Yamamura S, Araki S, Arima Y, Yamamoto E, Izumiya Y, Tsujita K. Biochemical and Biophysical Research Communications. 2025. doi: 10.1016/j.bbrc.2025.152802.
4. Michito Sadohara, Hiroki Irie, Manami Kuwahara, Katsuyuki Sagishima, Hiromichi Tanaka, Kunihiko Matsui. Type C foodborne botulism: First clinical case report of a cluster within a family in Japan. Medical Reports. 2025;14:100386.
5. Kiyoshi Shikino, Akira Kuriyama, Yoshito Nishimura, Michito Sadohara, Saori Nonaka, Kosuke Ishizuka, Fumitoshi Fukuzawa, Hanae Shimura, Noriko Yamamoto, Mitsuru Moriya. Burnout in Japanese Internists and Primary Care Physicians in 2024: The Prevalence and Risk Factors Using Structural Equation Modeling. Internal Medicine. 2025;64(23):3349-53.
6. Michito Sadohara, Kunihiko Matsui. Adapting the Hospitalist Work Style to Japan' s Work Style Reform: A Qualitative Study from the Perspectives of Japan-Trained Hospitalists in the United States. JMA Journal. Advance Publication; April 3, 2026. DOI: 10.31662/jmaj.2025-0512.
7. Hiroto Yamanashi, Anna Dania, Makoto Kaneko, Takamasa Watanabe, Takahiro Mochizuki, Moe Kuroda, Mariko Ishisaka, Tadao Okada, Takuya Aoki, Yoshihiro Okura, Hiroshi Takayanagi, Jun Hamano, Hideki Mori, Koichiro Kadota, Yuya Motoishi, Jun Miyata, Koichiro Hamada, Shingo Masuda, Takahiro Maeda. Practice-Based research network activities and future nationwide plans in Japan. Journal of General and Family Medicine. 2025 Dec 15;27(1):e70091.
8. Kunitomo K, Kubosaki J, et al. Silicone Breast Implant as a Hidden Cause of Fever. Cureus. e89083 Vol.17(7) 2025 Jul 30.
9. Harada Y, Sakamoto T, Wada Y, Ishizuka K, Kubosaki J, et al. Examining atypical presentations associated with a higher risk of diagnostic errors using a new classification model. Diagnosis. Vol.12 2025.
10. 榊原 史啓, 植田 真一郎, 松井 邦彦, 佐土原 道人, 東恩納 美樹, 作間 未織, 根津 麻里, 芳川 裕亮, 森本 剛, 研究公正にかかる事例検討, 日本臨床薬理学会学術総会抄録集 46 (0), 196-, 2025
11. 櫻間 啓基, 松岡 隼平, 櫻間 博文, 佐土原 道人, 甲斐 豊, ジクロフェナクナトリウム経皮吸収型製剤による薬物性肝障害が疑われた1例, 日本病院薬剤師会雑誌, page 12 Vol.61 2025年
12. 高柳 宏史, 菅家 智史, 濱口 杉大, 福島県の地方都市における家庭医療専門医の入院を要さない患者に

【研究】

1. 松井 邦彦 (研究代表者)，基盤研究 (C)「レセプトビッグデータを用いた大腸がんに対する内視鏡検査の効果についての検証」，研究期間：2025/4/1-2028/3/31
2. 荒木 智，基盤研究 (C)「トレハロースによる腸-脳-心連関の解明」，研究期間：2022/4/1-2026/3/31
3. 荒木 智，基盤研究 (C)「肺高血圧症における Sirt7 の機能解析」，研究期間：2025/4/1-2028/3/31
4. 高柳 宏史，基盤研究 (C)「ICPC-3 日本語版の開発」，研究機関：2024/4/1-2027/3/31

【学会発表】

1. Michito Sadohara, Taito Kitamura, Kunihiko Matsui. Title: Utility of Poetry as a Reflective Learning Tool in Rural Community-based Education for Medical Students. SGIM 2025. Hollywood, Florida. 2025/5/14-5/17. Poster presentation.
2. Michito Sadohara, Taito Kitamura, Kunihiko Matsui. Utility of Photovoice as a Tool for Reflective Learning in Rural Community-based Learning for Medical Students. SGIM 2025. Hollywood, Florida. 2025/5/14-5/17. Poster presentation.
3. 久保崎 順子、「経口ビスフォスフォネート製剤が有効であったびまん性硬化性骨髄炎の2例」、第122回日本内科学会講演会、大阪府大阪市、2025/4/18-4/20、一般演題
4. 佐土原 道人，北村 泰斗，高柳 宏史，松田 圭史，堤 龍子，荒木 智，松井 邦彦、「コロナ禍後の地域医療特別実習の再構築－効率化と学修効果の両立」、第11回九州地域医療教育研究会、長崎県長崎市、2025/5/10、口演
5. 小山 耕太、「県が行う自治医医師の教育支援」～教育・キャリア支援から得られる期待とは～、第11回九州地域医療教育研究会、長崎市、2025/5/10、口演
6. 小山 耕太、「地域医療教育の共有化を考える」～プログラム、コンテンツ、アウトカム～、第11回九州地域医療教育研究会、長崎市、2025/5/10、口演
7. 山口 竜蔵，佐土原 道人，松井 邦彦、「地域医療実習の学びを促進するための手法としてのフォトボイスと肥後狂句」、第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、北海道札幌市、2025/6/20-6/22、口演
8. 鈴木 竜太，佐土原 道人，松井 邦彦、「地域医療特別実習での実習の成果の自己評価の分析のアンケート調査より」、第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、北海道札幌市、2025/6/20-6/22、口演
9. 永野 七海，高柳 宏史，増永 菜央，松井 邦彦、「避難所運営ゲーム (HUG) を用いた災害医療の学びについて」、第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、北海道札幌市、2025/6/20-6/22、ポスター
10. 中村 孝典、「看護師を育成し、患者 QOL と病棟運営改善のための多職種カンファレンスを発展させた活動報告」、第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、北海道札幌市、2025/6/20-6/22、ポスター
11. 平賀 円、「経皮的腎結石除去術から20年後に後腹膜膿瘍・皮下膿瘍を発症した腎結腸瘤の一例」、第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、北海道札幌市、2025/6/20-6/22、ポスター
12. 佐土原 道人、「研究公正・倫理に関する能動的学修のための e-Learning コンテンツの開発とその試用」、第57回日本医学教育学会大会、秋田県秋田市、2025/7/25-7/27、口演
13. 中村 孝典、「くまもと県北病院における診療参加型臨床実習」、第57回日本医学教育学会大会、秋田県秋田市、2025/7/25-7/27、シンポジウム
14. 田添 英典，佐土原 道人，中村 孝典，田宮 貞宏，松井 邦彦、「Streptococcus gallolyticus による感染性心内膜炎に続発した Wallenberg 症候群の一例」、第31回日本病院総合診療医学会、2025/9/27-9/28、兵庫県姫路市、ポスター
15. 小山 耕太、「Unbalanced distribution of physicians in rural areas of Kumamoto, Japan」～The effects of the 10-year medical education project conducted by Kumamoto University～、1ST ANNUAL

INTERNATIONAL SCIENTIFIC CONFERENCE, SCHOOL OF MEDICINE, MFU、タイ国チェンライ、2025/11/19-11/21、口演

16. 木下 聡、「認知症高齢者一家への治療介入の一例 ―ダブルボード志向の地域枠医師の活動報告―」、第38回日本総合病院精神医学会、2025/11/21-11/22、栃木県栃木市、ポスター
17. 榊原 史啓、植田 真一郎、松井 邦彦、佐土原 道人、東恩納 美樹、作間 未織、根津 麻里、芳川 裕亮、森本 剛、「研究公正事例検討ワークショップ」、第46回臨床薬理学会、2025/12/5-12/6、東京都、ワークショップ
18. 松井 邦彦、佐土原 道人、榊原 史啓、植田 真一郎、東恩納 美樹、作間 未織、根津 麻里、芳川 裕亮、森本 剛、「研究公正にかかる事例検討」、第46回日本臨床薬理学会学術総会、東京都、2025/12
19. 中村 孝典、「救急外来における多職種での緊急倫理カンファレンスの活動報告」、第20回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 九州支部学術大会、沖縄県南風原町、2026/1/31-2/1、ポスター
20. 國行 浩平、「入院環境が治療の阻害因子となった拒食合併認知症患者に対し、在宅医療導入が奏功した一例」、第20回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 九州支部学術大会、沖縄県南風原町、2026/1/31-2/1、口演
21. 中村 孝典、小グループ学習、第4回 K-HANDS-FDF、2026/2/7、鹿児島県鹿児島市、小グループディスカッション
22. 堤 龍子、「総合診療領域におけるDEIの実装と展望～日本病院総合診療医学会DEI委員会発足記念シンポジウム～」、第32回日本病院総合診療医学会学術総会、2026/2/21-2/23、長崎県長崎市、シンポジウム
23. 中村 孝典、PEECのオリエンテーション、第4回PEEC玉名コース、2026/3/7、熊本県玉名市、講師

【講演会・講師等】

1. 堤 龍子、「あれもこれも!遠回り、まっしぐら!」、卒後ワークライフバランスについて考える会 2025 in Jichi、2025/6/14、口演
2. 小山 耕太、「熊本県の医師偏在解消に向けて」～我々が目指す持続可能なへき地医療～、令和7年度 しよう病院 院内学会、2025/6/28、口演
3. 佐土原 道人、「研修方法と評価」、2025年度第2回看護師特定行為指導者講習会、2025/10/5、タスクフォース
4. 高柳 宏史、「What is EBM? How to EBM?」、第1回"Kuma総診Café"、2025/10/14、講演
5. 小山 耕太、「少子高齢化時代の医療従事者確保に向けた取り組み」～行政(県)の立場から～、令和7年度 第40回 熊本医療センター シンポジウム –医療の将来–、11/14、口演
6. 佐土原 道人、福澤 文駿、石塚 晃介、大田 貴弘、「医療現場のWell-being向上への取り組み方～個人レベルと組織レベルでのアプローチ～」、ACP日本支部第2回PWCオンラインセミナー、2025/11/27、セミナー(オンライン)
7. 佐土原 道人、「研修方法と評価」、2025年度第5回看護師特定行為指導者講習会、2025/12/21、タスクフォース
8. 佐土原 道人、「社会が求める医師の臨床能力とは、臨床研修の問題点への対応」、第22回熊大病院群臨床研修指導医研修ワークショップ、2025/12/1-12/2、タスクフォース
9. 佐土原 道人、「卒前医学教育の新しい流れ、研修評価(2):評価の流れと評価票作成」、第186回臨床研修指導医講習会(全国自治体病院協議会)、2025/12/13-12/14、タスクフォース
10. 佐土原 道人、「研修評価」、2025年度全日病指導医講習会、2026/2/1、2/15、タスクフォース
11. 小山 耕太、「熊本県臨床研修プログラムマッチングの現状と、これからの展望」、熊本県公的病院長会、2026/2/5、口演
12. 佐土原 道人、「医師臨床研修制度の理念と概要、臨床推論を引き出すプレゼンテーションの指導:SNAPSS、臨床現場での評価(WPBA)とポートフォリオ、指導医に必要な医療安全・労務管理の知識、フィードバックセッションの体験」、第31回徳洲会グループ臨床研修指導者講習会、2026/3/7-3/8、

タスクフォース

13. 高柳 宏史, 佐藤 寛美, 田中 千恵美、「臨床推論／トリアージ エビデンスに基づく日常臨床TIPs ～基本から応用～」、プライマリ・ケア看護学 ワークショップ@熊本 2025、2026/2/28、講演
14. 高柳 宏史、「ICPC-3の内容と国際的動向について」、オンラインICPCセミナー2026、2026/3/20、講演



【教員】

高柳 宏史 特任講師

熊本大学病院 地域医療支援センター

熊本大学病院で勤務を始めて10年ですが、このたび2026年3月で退職することとなりました。この10年間で地域医療支援センター、ならびに総合診療科での活動をまとめたいと思います。

1) 医学教育

- ・教育医長(2017年度～2025年度)
- ・早期臨床体験実習Ⅲ(必修) 担当教員(2016年度～2021年度)
- ・クリニカルクラークシップ(必修) 地域医療担当教員(2018年度～2023年度)
- ・文部科学省補助事業ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業
 - 熊本大学医学部医学科「地域医療総合演習」(選択科目)(2023年度～2025年度)
- ・臨床推論サークル 医灯会設立・初代顧問(2025年度)

2) 専門研修

- ・家庭医療専門研修 指導(2016年度～2020年度)
- ・総合診療専門研修プログラム管理委員会 事務局(2018年度～2020年度)
- ・レジデントデイ運営 4～5回/年(2016年度～2025年度)

3) 臨床

- ・外来医長(2021年度～2025年度)
- ・病棟医長(2021年度～2025年度)
- ・熊本大学病院 救急部 診療支援(2019年度～2025年度)

4) 地域医療支援センター

- ・地域枠学生教育
 - 地域医療ゼミ(シラバス外)月1回開催(2016年度～2025年度)
 - 夏季地域医療特別実習 担当教員(2016年度～2018年度)
- ・キャリアコーディネーター(2024年度～2025年度)

これらの様々な経験から、非常に多くのことを学ばせていただきました。4月からは熊本市内にあります「ひまわり在宅クリニック」という訪問診療専門クリニックで勤め始めます。いままで支えてくださいました皆々様に感謝申し上げます。

佐土原 道人 特任助教

熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

診療支援先としては、昨年度に引き続き阿蘇医療センターにお世話になりました。多様な医療機関から実習・研修に訪れる学生や研修医との交流は、当方にとっても大きな刺激となりました。

総合診療専門研修プログラムに関しては、2025年度に専攻医1名が修了判定を受けました。さらに次年度には新たに3名の専攻医が加わる予定であり、本プログラムは毎年安定して専攻医を確保できております。2026年は熊本地震から10年の節目にあたり、また日本専門医機構における新基本領域としての総合診療専門研修も8年目を迎えます。現在、総合診療科、地域医療支援センター、寄附講座を含めたいわゆる医局所属者は、各所合計で20名を超える規模となりました。今後は、総合診療専門医取得者が特任ではなく正式な指導医として活躍していく段階に進むことを期待しています。

私事ではありますが、2026年4月1日付で宮崎大学医学部総合診療科学講座の教授に選任されました。これまで熊本大学において、地域枠学生や自治医科大学卒業生を対象とした特別地域医療実習、くまもと県北病院をはじめとする教育拠点での診療・教育・キャリア支援、ならびに専門研修プログラムの運営に携わってきた実績が評価されたものと受け止めております。今後は新たな環境において、熊本で培った経験を活かし、引き続き地域医療と人材育成に尽力してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

堤 龍子 特任助教

熊本大学病院 地域医療支援センター

今年度も地域医療支援センターでの活動を継続

し、無事1年を終えることができました。昨年度に引き続き、女性医師・子育て医師支援の一環として意見交換会を開催し、今年度は初めて地域卒の女子学生さんにもご参加いただくことができました。世代や立場を越えた交流が生まれ、地域医療の将来と一緒に考える貴重な機会となりました。

また、母校での講演をはじめ、学会で初めてシンポジウムのディスカッサントとして女性医師・子育て医師支援についてお話しする機会もいただくなど、今年度も「はじめて」の経験に恵まれ、学びと刺激の多い一年となりました。活動を通じて新たな人とのつながりも広がり、支え合いながら成長していることを実感しています。

今年度をもって大学を離れ、来年度からは地域での臨床に戻ることであります。大学での教育や支援活動で得た経験を活かし、地域実習や研修で訪れる学生さん・研修医の先生方に少しでも学びを届けられるよう努めたいと思います。また、地域卒医師や自治医科大学卒の医師の先生方と現場でともに働きながら、その活動を支援していけるよう取り組んでまいります。これまで大学で築いたご縁を大切にしながら、連携を深め、地域医療の魅力を感じつつ次の世代へと伝えていけるよう取り組んでまいります。

北村 泰斗 特任助教

熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

夏季地域医療特別実習は、コロナ禍による中断を経て再開されてから3年目を迎えました。実習経験を有する学生も増え、1泊2日という限られた期間にもかかわらず、フィールドワークから成果発表に至るまで円滑に実施されていた点が印象的でした。一方、フォトボイスでは訪問先の状況や倫理的配慮により撮影が困難な班も見受けられました。「地域を知る」という目的をより充実させるため、駅や市場、防災拠点、自然環境、神社、集落など地域を象徴する場所に短時間でも立ち寄る工夫なども有効かと感じました。

また、地域卒キャリア支援・面談は対象者が年々増加しておりますが、重要な任務として位置づけ、引き続き気軽に相談できる環境整備に努めてまいります。

本年度は熊本大学専門研修プログラムに新たに3名が参加しました。自身の専攻医時代の反省も踏まえ、中長期的視点を意識した支援を、臨床現場や勉強会、交流の機会を通じて継続していく所存です。

今後も総合診療人材の育成に貢献してまいります。引き続きご指導ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

鶴田 真三 特任助教

熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座
河浦教育拠点

今年度は、新たに後期研修医として4月から足立先生、10月から田添先生が赴任され、人数も多く賑やかに過ごすことが出来ました。かわりに下地先生が9月で河浦病院から異動になりましたが、異動後にもご自身で手掛けていた院内のプロジェクトを後継者に託すため何度か天草まで来ていただいたことがあり、よほど河浦、天草を気に入ってくれたのだと嬉しく思います。

地域活動としては、昨年同様の活動に加え、保健所からの講師依頼などもあり、徐々に河浦での活動が天草他地域からも認知されるようになってきたように思います。今後も他地域に参考としていただけるような活動を継続、発展していけるよう邁進していきたいところです。

大学からの医学生や地域研修で河浦に来る初期研修医への教育も引き続き楽しく行うことが出来ています。せっかくのへき地でのプライマリケアのフィールドなので、生物医学系の内容に限らず、地域活動や心構え、へき地で暮らすことの大切さ等も感じてもらえているかなと思います。

今後も地域の役に立てるよう、日々楽しく活動していきたいと考えています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

平賀 円 特任助教

熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座
くまもと県北教育拠点

令和7年度、特任助教としてくまもと県北病院に勤務し、主に初期研修医および医学生の教育指導に従事しました。

研修医教育においては、病態生理、病棟管理、輸液の考え方といった基本的な内容に加え、患者家族への説明に同席させ、さらには研修医自らが主体となって説明を行う機会を積極的に設けました。あえて研修医の範疇を少し超えるような、実践的かつ責任ある経験を積ませることで、研修修了後に「一人前の医師」として自立できる技術の習得を目標とし

ました。

医学生に対しては、中村医師と共に「実習期間中、毎日1回は必ずレクチャーを行う」という目標を掲げ、多角的な指導を展開しました。医学的知識や技術のみならず、医療倫理やプロフェッショナリズムといった「医師としての姿勢・態度」に関する教育にも注力することで、他院との差別化を図りました。これにより、当院ならではの「総合診療」の魅力を伝える独自の教育が実践できたと考えております。

こうした取り組みの成果として、実習に参加した学生が実際に当院をマッチング先を選ぶ事例もあり、我々の教育方針と情熱が学生に届いている結果として、大きな手応えを感じております。

小山 耕太 県北教育拠点指導医

熊本県健康福祉部健康局医療政策課
熊本県へき地医療支援機構

「熊本県行政医師として

熊本大学総合診療科に貢献すること」

2025年4月から熊本県健康福祉部健康局医療政策課の常勤となり、私の役割は、これまで県北の教育拠点で積み上げてきた実践を、熊本県全体へ本気で広げていく段階に入りました。行政の立場に移った今、地域医療を守るには、目の前の診療だけでなく、医師を育て、支え、地域へつなぎ、根づかせる仕組みそのものを作らなければならないことを、これまで以上に強く実感しています。

今年度は、自治医科大学卒業医師への教育支援をはじめ、地域医療教育の共有化、へき地医療の持続可能性、医師偏在の解消、臨床研修マッチングの展望などについて発信してきました。しかし、これらは単なる行政施策ではありません。熊本大学総合診療科が長年大切にしてきた「地域に貢献する医師を、地域で育てる」という思想を、県全体のかたちに変えていく挑戦そのものです。大学、行政、現場をつなぐことで、総合診療科の実践知を熊本の未来へ還元する。その循環をより強く、より確かなものにしていくことこそ、私が果たすべき貢献だと考えています。

立場が変わっても、熊本大学総合診療科の一員としての思いは変わりません。医局と熊本県の双方がさらに飛躍できるよう、前を向いて、責任を持って、一歩ずつ形にしていきます。

ゆっくりだけど、確実に前進

古賀 義規 客員研究員

天草市立御所浦診療所 所長

御所浦診療所に赴任して11年になりました。常勤の総合診療科医師2名と非常勤の総合診療科医師、整形外科医師、眼科医師による週1の支援、非常勤精神科医師による2ヶ月に1回の支援により運営しております。今年度も私以外の常勤医と非常勤の総合診療科医師は大学からの支援です。大変ありがとうございました。感謝しております。

今年度の主な活動としては、御所浦診療所での外来診療・訪問診療、御所浦北診療所での週2回の診療・訪問診療を行いつつ、各種予防活動、保健・介護・福祉との連携に力を注ぎました。それとともに、研修医教育・医学生や看護学生への学生教育にも携わらせて頂きました。

2025年度は私が所属する熊本県へき地医療医師の会の病院長と熊本県へき地医療自治体病院開設者協議会の各自治体首長との連携を深めるべく講演会と懇親会が催されました。テーマは医療Maasでしたが、地域における行政全体の中の医療のプライオリティや期待されていることについて認識できる良い機会であり、今後は地域で働く義務年限内の地域枠医師や自治医大卒業医師にも参加してもらいたいと思えるイベントでした。

今後も特に離島医療・へき地医療の魅力を伝え続け、ごのような地域で働きたいと思える人材育成に微力ながら尽力したいと考えています。

【総合診療科 医局員】

松田 圭史 医師

熊本大学病院 総合診療科

2025年度も引き続き熊本大学病院総合診療科での勤務となりました。

大学病院では地域の病院とは違った学びを得ることができですが、特に大きかったのがFD (Faculty Development) コースへの参加です。約1年間の継続的な教育プログラムを通して、医学教育や組織運営について幅広く、深く学ぶことができました。また、全国から集まったフェローや講師陣との出会いも大きな財産となりました。このFDコースはすぐに現場で実践できるようにも設計されているため、この学びをしっかりと活かして今後の活動に取り組

んでいきたいと思います。また、これまでも研究に携わることもありましたが、今後はさらに積極的に関わっていききたいと思います。

総合診療科の先輩・後輩の多様な活動にも刺激を受け、診療のみならず教育・研究の重要性を再認識した一年となりました。今後も地域と大学双方での学びを統合しながら、広い視野を持って熊本県の地域医療に貢献できるよう努めてまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

武末 真希子 医師

大学院生

令和7年度も引き続き大学院生として研究活動を継続しました。ようやく結果が出揃い、結果をまとめる段階まで来ることができました。今年度中の論文文化はできませんでしたが、令和8年度は学会での発表、論文文化を予定しております。

また、今年度からは非常勤ではありますが復職し、臨床医としてのスキルも再研鑽していきたいと考えております。

来年度からは大学教員として、引き続き研究を進めつつ、教育活動にも関わっていきます。今後ともよろしくお願いいたします。

久保崎 順子 医師

くまもと県北病院 総合診療科

令和7年4月から12月まで、国立病院機構熊本医療センター総合診療科にて勤務しました。この間、内科学会での口演を1回行いました。また、日本病院総合診療医学会の若手医師で構成される「良質な診断ワーキンググループ」にも一部参加させていただき、診断エラーに関して学ぶことができました。

令和8年1月以降は、くまもと県北病院総合診療科へ異動し、熊本大学寄付講座の特任助教として勤務しております。同院は総合診療科レジデントとして初めて勤務した思い入れのある職場であり、懐かしさを感じながら、スムーズに業務に馴染むことができました。新たに3名のレジデントの先生方が加わり、大変心強く、嬉しく感じております。

日々の診療の中で困難な場面も多いと思いますが、若手の先生方には「学びになった」「成長できた」と実感できる時間を積み重ねていただきたいと考えています。私自身もまだまだ田宮先生、中村先生をはじめとした上級医の先生方からご指導いただきなが

らではありますが、微力ながら後進の育成と診療の質の向上に貢献できるよう努めてまいります。

空田 健一 医師

湯島へき地診療所 所長

地域の人口が減少している中、上天草市は発展(現状維持)を目指しているようで、湯島で貴重な経験をさせていただきました。今後、学びを活かしていきます。

① 補助金

1か月に受診される患者さんは100人を切り、週に1日診療所を開ければ対応できるような仕事量になってきました。私が有給休暇を取ると「週に4日開けないと補助金を減らされるから」と上天草市が代理の医師を依頼されていました。

② 病気づくり推進課

湯島の看護師は上天草市健康づくり推進課の職員であり、診療所の売り上げを上げると評価されるようでした。看護師は「血圧をちゃんと管理した方がいいに決まっている」と訴え、老衰が進行した人達(患者さんの1割)は、血圧が高いとすぐにでも脳梗塞になるような不安を訴え、「薬を飲むと安心」と言っておられました。私が着任したときには降圧薬の処方量が多くなっていて、患者さんの約3割に「めまいの薬」が追加されていました。

③ 島流し

次の先生が働きやすい職場づくりを心がけました。売り上げで評価される方々とは向いている方向が違いすぎました。地域で総合診療みたいなことをやりたい人は、上天草で勤務しないことを強くおすすめします。

松岡 隼平 医師

熊本南病院 総合診療科

私の令和7年度は、医師8年目と同時に地域枠医師としても8年目、そして熊本南病院という総合診療科医局の医師の派遣が今までにない病院での勤務という挑戦の意味もある一年でした。前年度に総合診療専門医を取った後の異動ということもあり、勉強が主な目的のレジデントから、自ら培ったスキルで病院に貢献していく立場になったという意識の変化もありました。熊本南病院での総合診療科の働き方は、主に初診外来、救急外来、家庭医、common diseaseの入院、患者の生活環境調整、

緩和ケアの入院、が主でした。そこで働く中でやはりプライマリケア、common disease、生活環境調整、この3つはどこに行っても強い需要のある分野だと思いました。また、院外実習での学生教育、地域枠学生の夏季実習や歓送迎会、病院研修説明会、など学生と直接接することができる機会は大事にして、総合診療科の広報活動は積極的に行なっています。特に、地域枠の学生には是非とも総合診療科に興味を持って貰い、将来共に総合診療を担う立場になってくれればと感じています。最後に私事ですが2月に第三子が生まれ、仕事と家庭の両立が今まで以上に課題となっていると感じています。年齢30半ばに差し掛かり、周りの同期達からも同じような言葉をよく聞き、卒後5-10年目の医師が抱えがちな問題なのかなと感じています。

今の自分への課題として、自分の地域枠医師としてのキャリアモデルが、後輩に魅力を感じてもらえるようなものに仕上げたいと思っています。そのためまずは家庭と仕事の両立を大事にして、アピールポイントにしていきたいと考えています。地域枠最後の一年も引き続きよろしくお願いします。

西富 友哉 専攻医

天草市立御所浦診療所

令和7年度は前年度に引き続き、天草市立御所浦診療所に勤務しました。勤務2年目になると、診療所スタッフの皆さんともかなり打ち解け、地域の皆さんにも顔なじみが増えました。地域の料理教室へ参加した際には、普段は診療所を受診されない皆さんとも交流することができました。地域のコミュニティーセンターで、「生活習慣病とその予防」についての地域住民向け講演を行う機会があり、そこでも、よく診療所でお見かけする方から全く知らない方まで様々な住民及び福祉関連の方々と交流することができました。日常診療については、地域で唯一の民間クリニックが閉院したことで、新規の患者さんが多数通院されるようになりましたが、内容としては前年度と大きく変わらず、高血圧、糖尿病、脂質異常症等の慢性疾患フォローや、季節性や流行性のある感染症等を中心に、アレルギー疾患、皮膚疾患、不眠症、頻尿、便秘、外傷、不定愁訴等、様々な患者さんが受診されました。訪問診療、特定健診や船員健診、二次健診、乳幼児や学童の健診も変わらずありました。多くは緊急性のない患者さんですが、稀に急性心筋梗塞や頭蓋内出血等の方がウォー

クインで受診されることがありました。いずれもすぐに高次医療機関へ紹介し、幸いにも見逃した症例はなかったと思っていますが、中には患者さんご自身が「もう少し様子を見てみましょうか。」と提案してきたこともあり、押しに負けていたら見逃していたかもしれないということもありました。プライマリケアの現場では、多くの軽症患者の中に、たまに軽症患者の顔をして重症患者がやって来るという怖さを改めて認識しました。学生や研修医の頃は、とりあえずCTを撮るような医者にはなると教えられますが、とりあえずCTを撮りたいと何度思ったことでしょう！医療は一人ではできません。一施設でもできません。その医療圏全体でワンチームとしてやっていく必要があると感じました。

足立 瑛彦 専攻医

天草市立河浦病院 総合診療科

私は令和7年4月から1年間、天草市立河浦病院総合診療科に勤務した。業務は入院患者の管理が主で、外来を担当することは比較的少なかったが、入院患者で自宅退院困難な方の退院調整に際して、多職種で知恵を出し合い、本人や家族と何度も話し合って退院先を決めることができたのは多職種連携の意義を知るうえで有意義な経験であったと思う。また、私が外来で担当した方で、本人が抱えている疾患に対して医学的な介入のみならず、本人の心配事や取り巻く環境などの背景まで聴取し、疾患の多様な原因にも介入できたことがあった。患者の訴えを傾聴し、信頼関係を築くことができたのは、今後私が臨床業務を行う上でも大いに活用できるであろうと考える。

上級医の先生方がなさっていた、訪問診療や一般向けの講演などは、今回できなかった。この1年間でやり残したことも多いように思えてならない。可能ならば、臨床経験を十分に積んでから、また河浦病院に戻ってきたいと思う。

田添 英典 専攻医

天草市立河浦病院 総合診療科

令和7年度の上半期は熊本大学病院、下半期は天草市立河浦病院で勤務しました。熊本大学病院では救急外来や、総合診療科の外来を担当しました。特に総合診療科の外来では、複数の医療機関を受診しても診断がつかなかった方や、複雑なバックグラウ

ンドをもった方の診察を経験することができ、診断能力の向上を実感することができました。ひとりの患者さんに十分な時間をかけて診察する中で、心理社会的背景を意識した病歴聴取の重要性についても学ぶことができました。また、9月に病院総合診療医学会でポスター発表できたことも、自分にとって大きな糧となりました。

一方、下半期の天草市立河浦病院では、訪問診療や介護施設の回診、オンライン診療や巡回診療所での外来など、毎日とても貴重な経験をさせていただいています。大学病院とは大きく異なる環境の中で診療を行うことで、総合診療の裾野の広さを改めて実感しています。

次年度も引き続き河浦病院で地域医療について学びながら、専門医試験の準備を進めていく予定です。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

藤本 千里 専攻医

球磨郡公立多良木病院 総合診療科

自治医科大学の義務年限が終盤に差し掛かったタイミングで、総合診療科という学問をしっかりと学びたいと思う気持ちが強くなったことをきっかけに、2024年度より専攻医プログラムに入らせていただきました。2023年末に第一子を出産し、専攻医一年目である2024年度は地元のくまもと県北病院で勤務させていただきました。産後の体力がなかなか追いつかず、子供と一緒に度々風邪をもらってしまい、急な早退・病欠で現場の先生方には大変ご迷惑をおかけしましたが、実家のサポートをもらいながらなんとか1年を乗り越えることができました。2025年度からは義務派遣先として球磨郡公立多良木病院に再度勤務することとなりましたが、9月より産休をいただき、10月末に第二子を出産しました。2026年1月から産休明け復帰し、フルタイム勤務で現状はなんとか勤務できていますが、何より夫をはじめとした家族の支えがあつてのものだと感じております。仕事と家庭との両立はとても大変に感じますが、今しかない子供達とのかけがえのない時間も大事にしていきつつ乗り越えていきたいと思っております。

まだ産後まもない身体で体力のなさも日々痛感しておりますが、義務年限最終年として後輩達の診療のサポートもしっかりできるよう、日々研鑽して参りたいと思います。

木下 聰 専攻医

小国公立病院 総合診療科

専攻医1年生の木下聰です。令和7年度は小国公立病院(以下:当院)で研修をしました。小国郷(住民約1万人)には診療所3つと当院しかありません。当院は2次医療機関の立ち位置ですが、かかりつけ病院としての役割もあって実際は1.5次医療機関です。外来では1か月あたり延べ約200名の患者様を担当しました。入院患者様はトータル約55人/日(ベッド70床)で、そのうち約10名/日の患者様の主治医をしました。令和6年度は1年間で退院サマリ144人分を作成しました。その他、住民健診や予防接種、学校健診にも関わりました。病院設備にはXp、CT、MRI、超音波検査などがあります。脳波はありません。休日、時間外でも血液検査と画像検査はできますが、検査技師、放射線技師をオンコールで呼ばなければなりません。当院で診れない重症患者様の場合、熊本赤十字病院など他病院に搬送となります。患者数と症状で大きく異なりますが、概ね忙しいです。医局の雰囲気は良いです。上級医の先生も含め、医師は全員が優しいです。相談すると親身になって教えてくれます。毎月初期研修医が地域医療で、熊大医学部生がクリクラで当院に来てくれます。毎月歓送別会を行っているので飲み会は多い方だと思います。小国町は春のあけぼのにはウグイスが鳴き、夏の夜にはムカデが出没し、秋の夕暮れにはトンボが飛び、冬のつとめてには町内のいたるところに霜が降りる自然豊かなところです。小国郷では在宅看取り制度があります。最期は自宅で過ごしたい患者様はこの制度を利用しています。亡くなった時は当番医が訪問し、死亡診断書を作成します。患者様が亡くなる可能性が高い時、当番医は待機しておく必要があります。当院の常勤医は小国町の公務員になります。町の規定で給料は決まっており、令和7年の年収は約1500万でした。令和8年度はくまもと県北病院で研修をします。これからのご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いします。

安川 賢司 専攻医

小国公立病院 総合診療科

私は自治医科大学卒業した身であり、令和7年度には熊本県庁より小国公立病院に勤務するよう任命されました。研修医の身から初めて実際に臨床医と

して活躍することになり、当初は病棟の出来事一つに対しても困惑する日々が続きました。小国公立病院では日常よく遭遇する症候や疾患への対応、社会的問題への対応などを行いまして、患者には家族との関係として息子・娘とは疎遠で、退院した後についてどうするか多職種で考えあったり、老々介護の夫婦に対して外来でのICを行ったりもしました。

また、小国町・南小国町の特徴としては医師同士や訪問看護師の連携による24時間対応の在宅看取り制度がありましてこれはかなり勉強になりました。患者のことをチームで共有することで、土日であったとしても連携をとることにより、患者が最後までご家族とお過ごしできたことは小国で勤めていく中で印象に残ったことでした。近年では自宅で看取りを行いたいという方は増えており、今回の症例を通して在宅看取りについてもっと活躍できたらと思います。

来年度も引き続き小国公立病院にて勤務することになりました。患者の人生に対するベストをもっと考えて勤めていきたいと思います。来年度も何卒よろしくお願い申し上げます。

國行 浩平 専攻医

くまもと県北病院 総合診療科

令和7年度は総合診療科に入局して初めての年であり、くまもと県北病院で働かせていただくこととなりました。入局前は自分一人で検査、治療するという経験に乏しかったため知らないことも多く初めの頃はかなり苦労しました。特に前は二次救急病院にいたため、心筋梗塞、脳卒中などの重症疾患の経験がなく、どう診断していったらいいのか不安なところ、上級医の先生方に夜間休日を問わず助言をいただきとてもありがたかったです。またくまもと県北病院では患者さんの意思決定支援について大事にしており、私自身も以前から興味があったので学ばせていただきいい経験になりました。

症例数が多いのは大変でしたが、重症患者さんがいるときは休日も病院に行って、上級医の助言、サポートをいただきながら様々なことを学べたのはかけがえのない経験になり、研修医の頃と比べると大幅に成長することができました。研修医の頃は受動的に学ぶのみでしたが、今年度は主治医として主体的に診療することで、新しいことを学べる喜び、患者さんや同僚と関わる楽しさを経験出来た素晴らしい1年間でした。

令和8年度は第一子が誕生予定ですが、限られた時間を大切にしながらより一層学びを深めていきたいと考えております。来年度も色々な方々にお世話になることと思いますが今後とも何卒よろしくお願いいたします。

【事務スタッフ】

無田 英昭

地域医療支援コーディネーター

40代の頃に椎間板ヘルニアで入院したことがあります。手術はしていないので、常に再発の不安を抱えながら過ごしてきました。先日、ここ数年で一番の激しい腰痛に見舞われ、一瞬「入院」の文字が頭をよぎりました。「幸せの形」は人それぞれですが、その土台にあるのはやはり「健康」と痛感した次第です。どこに暮らしていても、いざという時に頼れる医療がある。当センターは、そんな安心できる環境を整える役割の一翼を担っています。医師不足や地域偏在が課題となる中で始まった「地域枠制度」ですが、この制度を活用して医師となり、現在県内の病院で活躍されている先生は、既定の義務期間を終えられた方も含めて既に70名を超えています。医師不足・地域偏在という課題は依然として残っていますが、この制度が地域の安心を支える大きな力として、さらに発展していくことを切に願っています。

川添 光芳

地域医療支援コーディネーター

今年度は地域医療支援コーディネーターに採用され3年目となり、これまでの経験を踏まえ、活動内容をブラッシュアップさせつつ、自分の役割を果たすことを目標に取り組んできました。

8月に芦北・水俣地域で実施した夏季地域医療特別実習は、過去最高の参加者がありました。地域の医療状況や課題等を実際に体験できる有意義な実習であることが、学生さんに浸透しているんだなと実感し、とてもやりがいを感じました。

また、私が企画・制作を担当している、地域医療支援機構の広報誌「COCODE!」も、読者の興味を引く内容にすることを心掛け、人吉保健所長様など様々な部署で働いておられる方をインタビューして、バラエティに富んだ誌面にするよう工夫しました。

ところで、このコメントを書いているのは3月16日ですが、この日は医師国家試験の発表の日です。私が普段気にしていた方々も、一生懸命頑張られ、めでたく合格されました。とてもうれしく思います。

今後も、このような喜びを感じられるよう、みなさんを精一杯サポートしていきたいと気持ちを新たにしました。

原田 淳子 女性医師復職支援コーディネーター

令和7年度は、女性医師・子育て医師支援も3年目となり、若手医師や医学生の皆様の助けになるよう少しは取り組めたと思える1年になりました。

特に、4月と10月に改正育児・介護休業法が施行され、「子の看護等休暇」や「柔軟な働き方を実現するための措置」等が大きく変わりました。このタイミングで、熊本県医師キャリアサポートブック『CLOVER』のアンケート項目を変更したり、出産・育児に係る休暇や給付等をまとめた冊子『母性健康管理にかかる各種制度』を作成、配布し、少しは制度をわかりやすくできかなと思います。

また、現場の医師のお尋ねをきっかけに、大学病院内の授乳室を医師が診療時間中も利用しやすいよう、説明表示への追記もお願いできました。

2年間一緒に過ごした堤龍子先生は今年度までとなりましたが、貴重な時間を過ごさせていただき、ありがとうございました。また、松井先生はじめ関係の皆様には、この1年間大変お世話になり、ありがとうございました。

山並 美緒 事務補佐員

こちらでお世話になってから早いもので10年が経ちました。入職当初から様々な業務を共にしてきた先生方が、この度当講座を離れ、新たな道を歩まれることとなりました。別れは寂しく思いますが、これまでの多大なるご貢献に感謝するとともに、今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。先生方の間近で見て学んできたことを、これからは形を変えて若い世代へ伝え、支えていくことが私の役目だと感じております。

私自身は、今年度も変わらず夏季地域医療特別実習に赴き、地域枠学生が将来地域で働く上で必要と

なる経験・人脈・知見の習得をサポートいたしました。コロナ後に夏季実習が再開してから3回目の開催となり、コロナ禍で生じた4年間のブランクや学生同士のつながりの希薄さも、以前ほど感じられなくなってきました。

また、今年度は新たな取り組みとして「熊本臨床研修アライアンス」が始動しました。県内の35歳以下の若手医師が極めて少ないという現状を打破すべく、県内臨床研修病院の院長・研修担当者の皆様に呼びかけて発足したものです。7月と2月に研修プログラム説明会を開催し、私は事務局補佐として松井先生のもと、通常業務と並行しながら、県内の臨床研修・専門研修全プログラムおよび院内各診療科の出展案内・取りまとめ、医学生・研修医への周知と参加調整、当日に向けた準備などを担当いたしました。不慣れな業務も多く戸惑いながらの一年でしたが、無我夢中で取り組んでまいりました。

結果として、7月に26名だった参加者は、2月には43名へと大幅に増加いたしました。これは、参加施設・診療科の先生方が熱心に学生・研修医へ参加を呼びかけてくださった賜物です。回を重ねるごとに先生方の熱意を強く感じるとともに、熊本県全体で若手医師確保に向けて施設の垣根を越えた協力の輪が広がっていることを実感した一年でもありました。

これからも、これまで培われてきたものを大切にしながら、新生「熊大総合診療科」を陰ながら支えてまいりたいと思います。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

木口 知佳子 事務補佐員

今年度は寄附講座の事務補佐員として2年目を迎えました。主に担当している地域医療ゼミにおいて、教員や学生とより深い信頼関係を築けた一年でした。コミュニケーションが円滑になったことで、事前準備から当日の運営までをこれまで以上にスムーズに進めることができました。特に、幹事学年である5年生の熱意あふれる姿には深く感銘を受け、参加学生にとっても実り多きゼミとなったことに、大きなやりがいを感じております。

また、水俣・芦北地域での夏季実習では、フォトボイスや成果発表会の機器設営等に携わりましたが、タイトな日程の中でも真剣に地域と向き合い、発表をまとめ上げる学生たちの姿は非常に頼もしく思いました。地域医療に対する真摯な思いに触れ、私自

身も多大な刺激を受けました。

次年度は3年目となりますが、これまでの経験を糧に、常に先を見越した行動を心がけ、新しい業務にも積極的に挑戦しながら、総合診療・地域医療の発展に少しでも貢献できるよう精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いします。

横手 友紀子 事務補佐員

またひとつ季節が巡ろうとしています。出会いと別れの季節です。

私の年度業務の大きな柱の一つでもある本誌を作成していると、一年を振り返るこの時期には、業務内容の改善や新たな取り組みなど、この一年の歩みを改めて実感します。常に前向きな変化のある職場環境の中で、私自身も多くの刺激を受けながら仕事に取り組むことができました。

「出会い」といえば、本年度は総合診療専門研修プログラムに新たに3名の専攻医を迎えました。また、今年度からは臨床推論勉強会が始まり、その運営にも携わせていただいています。学生や研修医を対象としたレクチャーでは、先生方がどのように考え、一つひとつの情報を積み重ねながら診断へとたどり着いていくのか、その過程に触れることができまし

た。普段の業務では知ることのできない世界をのぞくことができ、私自身にとっても大きな刺激となりました。

一方で、この春は、これまで一緒に事業に携わり、さまざまな場面で業務を支えていただいた先生方やコーディネーターさんとの別れもありました。寂しさはありますが、新しい環境でのさらなるご活躍を心よりお祈りしています。

実際に臨床現場に立ち会う機会はありませんが、2017年よりこちらで仕事をさせていただく中で、総合診療、そして地域医療の重要性をこれまで以上に実感するようになりました。地域医療や次世代の育成に尽力されている先生方の姿を目にするたび、その活動を支えることも私たち事務スタッフの大切な役割であると感じています。

私の好きなヒーロー漫画に、最前線で活躍する人を支える存在の大切さが描かれています。私にできることはほんの小さなことかもしれませんが、日々地域医療を支えてくださる先生方が安心して医療業務等に従事できるよう、縁の下から支える一人でありたいと思っています。

この仕事を通して熊本の地域医療や総合診療医の育成に少しでも役立てていたらうれしく思います。これからも、一つひとつの業務を大切にしながら取り組んでまいります。



7 あとがき

令和7年度の活動についてご報告させていただきました。今年度は地域医療支援センター設立12年目にあたり、これまでの取り組みを継続しつつ、より充実した活動を展開する一年となりました。本年度も熊本県医師修学資金貸与学生および熊本県出身の自治医科大学医学部生を対象に、地域医療への理解を深めることを目的とした夏季および冬季地域医療特別実習を実施いたしました。夏季は水俣・芦北地域、冬季は玉名地域で行い、学生たちは地域医療の現状や課題に加え、環境問題や災害時の医療提供体制など、多角的な視点から学びを深めることができました。地域の現場に触れるこれらの経験は、将来地域医療を担う人材として成長するうえで、非常に貴重な機会となったものと考えております。実習の実施にあたりご協力いただきました国保水俣市立総合医療センター、くまもと県北病院をはじめとする医療機関の皆様、また水俣市、芦北町、津奈木町、玉名市、和水町の各ご施設・行政機関の皆様に、心より御礼申し上げます。

さらに、今年度末には熊本県就学資金貸与医師3名、自治医科大学卒業医師2名の先生方が義務年限を満了され、令和8年1月には知事公邸にて木村知事より感謝状が贈呈されました。今後も実習や面談を通じ、学生および医師の皆様のキャリア形成を継続して支援してまいります。

また、広報誌「COCODE!」vol.9を発行し、水俣・芦北エリアの特集を掲載いたしました。今後とも編集委員として、県内の地域医療の魅力発信に努めてまいります。

最後に、平井俊範機構理事長をはじめ、熊本大学スタッフの皆様、熊本県医療政策課の皆様には多大なるご指導・ご支援を賜り、深く感謝申し上げます。来年度も変わらぬご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

熊本大学病院
地域医療支援センター 副センター長
地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任教授
荒木 智

熊本県地域医療支援機構／熊本大学病院 地域医療支援センター

〒860-8556 熊本県熊本市中央区本荘1-1-1

Tel:096-373-5627 Fax:096-373-5796

E-mail:chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp

HP:<http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/>



熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

〒860-8556 熊本県熊本市中央区本荘1-1-1

Tel:096-373-5794 Fax:096-373-5796

E-mail:chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp

HP:<http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/dcfgm/>



令和7年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター

熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

